講 義 概 要・授 業 計 画
（シラバス）

令和5年
（2023）

高野山大学

密教文化コース

第1部　講義概要･授業計画について

1. 副学長挨拶

シラバスを活用しよう！

副学長（密教）

この『講義概要・授業計画 令和５年度』は一般にシラバス（syllabus）と呼ばれています（以下、「シラバス」)。シラバスには今年度の高野山大学の文学部密教学科密教文化コースで開講されるすべての科目に関する情報（授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価)、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点など）がコンパクトにまとめられています。シラバスは、今年度１年間のみなさんの学修の指針となるものです。今年度１年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切にし、学修に役立ててください。

本学は、2019年度から新しいカリキュラムを導入しました。また、2023年度には密教・仏教の思想や歴史を基本から学ぶ社会人編入学生のための密教文化コースを設けました。提供しているカリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するように設計されていることは、これまで通りです。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、様々な問題を抱える現代社会で活かしていける力を持った社会人のことです。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められ、さらに語学力も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっています。

みなさんの健闘を期待しています。

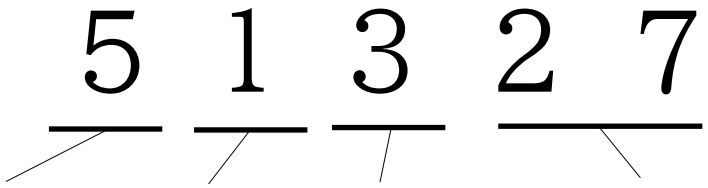
2. シラバスの見方

1)目次について

この『講義概要・授業計画』では、まず目次でシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

2)講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。



課程	曜日	時限	通し番号
５＝密教・人間学科共通	１＝月曜日	１＝１講時	01 ～ 25 ＝前期授業および通年授業（高野山）
６＝教育学科	２＝火曜日	２＝２講時	26 ～ 49 ＝前期授業および通年授業（遠隔授業・難波）
８＝別科生用	３＝水曜日	３＝３講時	51 ～ 75 ＝後期授業（高野山）
９＝大学院生用	４＝木曜日	４＝４講時	76 ～ 99 ＝後期授業（遠隔授業・難波）
	５＝金曜日	５＝５講時	
	６＝土曜日	６＝６講時	
	７＝集中講義	７＝７講時	
	８＝実習		
	９＝論文		

3)受講登録について

詳細は、「学修ガイドブック第２部４章履修登録の方法」を参照

4)報恩日(21日)の授業実施について

報恩日（21日）は高野山キャンパスで宗教行事が行われますので、授業は原則実施されません。ただし、授業回数の都合で実施する日もありますので、学年暦で授業実施日を確認してください。

5)GPAについて

1　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

2　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

3　対象

平成31年度入学生から対象となります。また３年次編入学生は令和３年度入学生からとなります。

4　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合否	評点	評語	ＧＰ	判定基準
合　格	90点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	79点～70点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	69点～60点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失　格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

5　ＧＰＡに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

6　履修取り消し

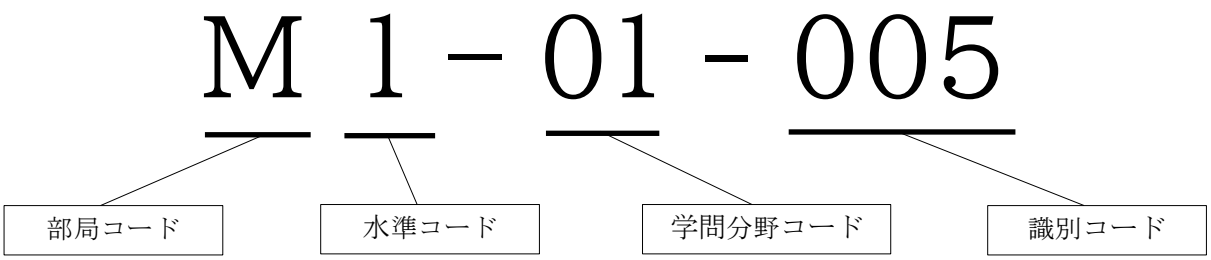
前期は５月末日まで、後期は10月末日までと履修取消期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

※卒業研究を提出しなかった学生は、前期は７月末までに、後期は１月末までに必ず論文科目の取り消しを行ってください。

6)科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

＜高野山大学科目ナンバリングの形式＞



＜各コードの定義について＞

1　部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

＜部局コード分類表＞

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2　水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

３　学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字２ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

４　識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字３ケタで表記しています。

7)シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「Ａ」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「Ｉ」については、ＩＣＴを用いて実施する科目を表しています。授業ではスマートフォンを利用した理解度把握システム等を使用します。スマートフォンを必ず用意してください。利用については、教員の指示に従ってください。

3. 文学部密教学科密教文化コース科目目次

曜日	開講時期	時限	授業科目	担当者	履修形態	頁
月	前期	2	仏教学概論S	菊谷竜太	OD	64
	後期	2	密教学概論S	北川真寛	OD	63
	通年	3	祖典講読ⅡS	大柴清圓	LSO	71
	前期	3	空海の思想入門S	北川真寛	LSO	52
	後期	3	密教学講読演習S	土居夏樹	LSO	84
	前期	4	宗教思想史ⅡS	櫻木潤	LSO	59
	前期	4	真言密教特殊講義S	北川真寛	LSO	81
	後期	4	真言密教講読演習S	北川真寛	IP	90
	後期	4	古文書解読S	桐田貴史	LSO	104
	通年	5	祖典講読ⅠS	土居夏樹	LSO	70
火	前期	2	歴史学S	坂口太郎	LSO	67
	後期	2	密教学講読演習U	櫻木潤	LSO	86
	後期	2	仏教学講読演習U	坂口太郎	IP	89
	通年	3	漢文S	南昌宏	LSO	53
	前期	3	企画科目(高野山の歴史と文化S)	木下智雄	LSO	96
	通年	4	サンスクリット語S	菊谷竜太	LSO	54
	前期	4	中国文化特殊講義S	南昌宏	LSO	107
	後期	4	中国文化特殊講義T	南昌宏	LSO	108
	通年	5	密教学演習T	菊谷竜太	LSO	92
	後期	5	密教学講読演習T	森崎雅好	LSO	85
水	通年	2	宗典講読T	德重弘志	LSO	74
	前期	2	巡礼・遍路T	柴谷宗叔	LSO	103
	後期	2	密教学特殊講義U	柴谷宗叔	LSO	77
	通年	3	サンスクリット語上級S	德重弘志	LSO	99
	前期	3	密教学特殊講義S	川﨑一洋	LSO	75
	後期	3	密教学特殊講義T	川﨑一洋	LSO	76
	通年	4	宗典講読S	川﨑一洋	LSO	73
	通年	4	企画科目(仏画S)	徐東軍	IP	97
	通年	5	密教学演習S	櫻木潤	LSO	91
木	前期	2	日本文化特殊講義S	溝端悠朗	LSO	105
	後期	2	日本文化特殊講義T	溝端悠朗	LSO	106
	通年	3	祖典講読ⅡT	川﨑一洋	LSO	72
	通年	4	漢字ⅠS	野田悟	IP	56
	通年	4	パーリ語S	岡田英作	LSO	101
	前期	4	宗教学ⅠS	小田龍哉	LSO	68
	後期	4	宗教学ⅡS	小田龍哉	LSO	69
	前期	5	仏教史概説S	菊谷竜太	OD	66
	後期	5	密教史概説S	菊谷竜太	OD	65
金	前期	2	心理学ⅠS	佐々木聡	LSO	61
	後期	2	心理学ⅡS	佐々木聡	LSO	62
	通年	3	サンスクリット語T	前谷彰	IP	55
	前期	3	仏教学特殊講義T	岡田英作	LSO	79
	後期	3	仏教学講読演習T	岡田英作	LSO	88
	通年	4	チベット語S	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	LSO	100
	前期	4	哲学S	南昌宏	LSO	60
	前期	4	仏教学特殊講義S	前谷彰	IP	78
	後期	4	宗教思想史ⅠS	奥山直司	LSO	58
	後期	4	仏教学講読演習S	前谷彰	IP	87
	通年	5	梵字悉曇S	添野了	IP	57
	前期	5	総合科目(仏教入門ⅠS)	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	LSO	93
	後期	5	総合科目(仏教入門ⅡS)	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	LSO	94
集中	前期	集中	仏教学特殊講義U	山本和美	IP	80
	後期	集中	真言密教特殊講義T	五十嵐啓道	IP	82
	後期	集中	真言密教特殊講義U	佐藤隆彦	IP	83
	通年	集中	企画科目(密教文化講座S)	松長潤慶	OD	98
	後期	集中	企画科目(仏教美術入門S)	内藤栄	IP	95
	通年	集中	巡礼・遍路S	密教学科主任	他	102

科目名	空海の思想入門S							学 期	前期
副 題	弘法大師空海の生涯と教え				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M1-01-207	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。そのため、大師の生涯や思想、大師への信仰を知ることが本学での学びの基本となる。 本講義では、専門課程を理解する上で必要となる、基本的な弘法大師の事跡を学ぶことを目的とし、大師の生涯や思想、大師が開創した高野山などについて講義する。

授業の到達目標
・弘法大師の思想を学ぶことを通じて、密教学の基礎を涵養する。 ・弘法大師の思想や生涯を理解し、説明できるようになる。 ・弘法大師が開創した高野山とはいかなる場所かを理解し、説明できるようになる。

授業計画
1.絵伝にみる弘法大師空海の生涯（1）―生誕～入唐―
2.絵伝にみる弘法大師空海の生涯（2）―入唐～帰国―
3.絵伝にみる弘法大師空海の生涯（3）―帰国後の活動～入定―
4.弘法大師空海の著作
5.弘法大師空海の教え（1）―即身成仏思想解説―
6.弘法大師空海の教え（2）―十住心思想解説―
7.弘法大師空海の教え（3）―法身説法解説―
8.真言密教の教え―曼荼羅解説―
9.弘法大師信仰（１）―入定信仰―
10.弘法大師信仰（２）―全国に残る大師信仰―
11.高野山の歴史と地理
12.高野山の諸堂解説
13.高野山の年中行事と学道
14.真言密教の教学―三密行の解説―
15.高野山の町石道

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、テキストを読んでおくこと（30分）。 ・事後学習として、講義内容とテキスト・配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること（60分）。

テキスト
・北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』（セルバ出版、2018年） 上記テキストを講師が一括で用意、もしくはコピーを配布する。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
・松長有慶『高野山』（岩波書店、2014年） ・川﨑一洋『弘法大師空海と出会う』（岩波書店、2016年） ・その他は、講義中に紹介する。

学生に対する評価
期末レポート（60%）、テキストの理解度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な弘法大師の生涯と思想の内容を理解できる。
（B）基本的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
（A）専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
（S）専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
ICTを活用した講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、弘法大師の生涯や思想、その信仰などを、僧侶としての立場から解説する。

科目名	漢文S							学 期	通年
副 題	仏教漢文入門				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-208	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海の文章を読みながら、仏教漢文を読解する基礎を修得する。読解するために必要な漢文法、難読字の読み方、特殊な用語、仏典・中国古典に関する知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付ける。文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。仏典・中国古典が空海の知識の源泉であることへの理解を深めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を修得する。受講生は、テキストの音読を必須とする。

授業の到達目標

漢文訓読の基礎を修得する。仏教漢文の特徴を知る。難読字や専門用語を調べることができる。参考文献を見つけ、利用することができる。漢文を読解し、内容を理解することができる。

授業計画

【前期】

1.請福州観察使入京啓 (1) 題目を読む。
2.請福州観察使入京啓 (2)「賀能啓……」を読む。
3.請福州観察使入京啓 (3)「故能西羌……」を読む。
4.請福州観察使入京啓 (4)「誠是明知……」を読む。
5.請福州観察使入京啓 (5)「伏惟大唐……」を読む。
6.請福州観察使入京啓 (6)「是以我日本国……」を読む。
7.請福州観察使入京啓 (7)「刳巨榆……」を読む。
8.請福州観察使入京啓 (8)「故今我国主……」を読む。
9.請福州観察使入京啓 (9)「賀能等忘身……」を読む。
10.請福州観察使入京啓 (10)「颯風朝扇……」を読む。
11.請福州観察使入京啓 (11)「頻蹙猛風……」を読む。
12.請福州観察使入京啓 (12)「但見天水之……」を読む。
13.請福州観察使入京啓 (13)「僅八月初日……」を読む。
14.請福州観察使入京啓 (14)「賀能等万冒……」を読む。
15.請福州観察使入京啓 (15)「又大唐之遇……」を読む。

【後期】

1.請福州観察使入京啓 (16)「面対竜顔……」を読む。
2.請福州観察使入京啓 (17)「又竹符銅契……」を読む。
3.請福州観察使入京啓 (18)「是故我国……」を読む。
4.請福州観察使入京啓 (19)「加以使乎……」を読む。
5.請福州観察使入京啓 (20)「然今州使責……」を読む。
6.請福州観察使入京啓 (21)「雖然遠人……」を読む。
7.請福州観察使入京啓 (22)「又建中以往……」を読む。
8.請福州観察使入京啓 (23)「伏願垂柔遠……」を読む。
9.請福州観察使入京啓 (24)「然則涓涓……」を読む。
10.請福州観察使入京啓 (25)「順風之人……」を読む。
11.請福州観察使入京啓 (26)「日本国留学……」を読む。
12.請福州観察使入京啓 (27)「逢時乏人……」を読む。
13.請福州観察使入京啓 (28)「今承不許……」を読む。
14.請福州観察使入京啓 (29)「雖然居諸……」を読む。
15.請福州観察使入京啓 (30)「伏惟中丞……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと (30分)。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと (30分)。出典を探し、原典を確認しておくこと (30分)。

テキスト

坂田光全『性霊集講義　平成新訂』(高野山出版社) のコピーを配布する。 運敞『遍照発揮性霊集便蒙』(『真言宗全書』42巻所収) のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

佐藤雅一『発展30日完成　漢文高校初級用』(日栄社)　小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000年修訂増補 『密教大辞典』法蔵館　昭和7年初版 水野弘元『仏教要語の基礎知識』2006年 加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010年　など

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (50%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

(C) 漢文を書き下し文に出来る。
(B) C段階に加え、難読漢字を読める。
(A) B段階に加え、内容を精確に理解できる。
(S) A段階に加え、専門的な疑問点を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語S							学 期	通年
副 題	サンスクリット初級				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M1-07-209	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

古典サンスクリット文法について語形のなりたちに注目し、基本的な文法書だけでなく工具類の扱いかたを射程に入れ、韻律・シンタックスに関する基礎知識をも修得する。精読する際に詩節を唱えてみることで実際に声に出してサンスクリットに親しむ感覚を身につける。

授業の到達目標

初等文法で習う文法規則を実際の古典資料と照らし合わせることによって連声や語形、韻律について正しく理解することができる。テキストやリーダーの指示どおりに文法事項やグロッサリー、注記を参照することで文献学の基礎を学び、作文や読誦を通じて実践的な知識をも身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 音韻論と連声（サンディ）、問題演習
3. 名詞の変化①（-a-語幹）、問題演習
4. 名詞の変化②（-ā-語幹）、問題演習
5. 名詞の変化③（男性-i-および-u-語幹、中性、女性の-i-および-u-語幹）、問題演習
6. 名詞の変化④（-ī-および-ū-語幹、単音節、-ṛ-語幹、二重母音語幹）、問題演習
7. 名詞の変化⑤（語根語幹、-as-, -is-, -us-語幹）、問題演習
8. 名詞の変化⑥（-ant-, -vant-および-mant-語幹）、問題演習
9. 名詞の変化⑦（-in-, -an-, -van-および-man-語幹）、問題演習
10. 名詞の変化⑧（-vas-, -yas-語幹）、問題演習
11. 名詞の変化⑨（-añc-語幹およびその他の語幹）、問題演習
12. 比較法、問題演習
13. 代名詞、問題演習
14. 数詞、問題演習
15. 試験と総括

【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 現在語幹①（第一種活用・幹母音語幹、未完了過去、願望法・命令法）、問題演習
3. 現在語幹②（第二種活用・語根型語幹）、問題演習
4. 現在語幹③（第二種活用・重複型語幹）、問題演習
5. 現在語幹④（第二種活用・鼻音挿入型語幹）、問題演習
6. 現在語幹⑤（未来語幹）、問題演習
7. アオリスト語幹、問題演習
8. 完了語幹・受動態、問題演習
9. 二次活用動詞①（使役活用と名詞起源動詞）、問題演習
10. 二次活用動詞②（意欲活用と強意活用）、問題演習
11. 準動詞（動詞的形容詞、不定詞、絶対詞）、問題演習
12. 複合語①（動詞複合語と副詞的複合語、名詞複合語（Dv））、問題演習
13. 複合語②（名詞複合語（TP, KD, BV））、問題演習
14. シンタックス（統語論）、問題演習
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として指示された次回の授業範囲について文法事項を調べ日本語訳を作成すること（90分）。事後学習としてテキストと自分のノートとを読み直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと（90分）。

テキスト

J. ゴンダ（著）・鎧淳（翻訳）『サンスクリット語初等文法―練習題、選文、語彙付』東京・春秋社、1989年（書店で購入）

参考書・参考資料等

① W. D. Whitney. Sanskrit Grammar. ② 同. The Roots, Verb-forms and Primary Derivates of the Sanskrit Language. ③J. S. Speijer. Sanskrit Syntax.

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに各授業における課題（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストやリーダーに指示された文法事項を忠実に押さえ、グロッサリーや注記を正確に参照することができている。

（B）連声（サンディ）や語形を正しく押さえ、語形を正しく比定することができている。

（A）韻文・散文の平易な文章について正しく理解し、散文で簡単な文章を作ることができる。

（S）韻文で簡単な文章を作ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。少しでもサンスクリット語に興味をもつ希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語T							学 期	通年
副 題	サンスクリット語の読解能力を高める				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M1-07-210	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

授業の到達目標
サンスクリット語とはどんな言語かを理解し、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を付ける。

授業計画

【前期】
1. オリエンテーション
2. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。① Guna-Vrddhi法則
3. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。② 母音階梯の特徴
4. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。③ 母音階梯の特徴
5. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8. 短文読解力を身に着ける。① 榊亮三郎の『梵語学』から引用
9. 短文読解力を身に着ける。②
10. 短文読解力を身に着ける。③ panca-tantraから引用
11. 短文読解力を身に着ける。④
12. 短文読解力を身に着ける。⑤
13. 原典翻訳①
14. 原典翻訳②
15. 原典翻訳③

【後期】
1. 原典翻訳④
2. 原典翻訳⑤
3. 原典翻訳⑥
4. 原典翻訳⑦
5. 原典翻訳⑧
6. 原典翻訳⑨
7. 原典翻訳⑩
8. 原典翻訳⑪
9. 原典翻訳⑫
10. 原典翻訳⑬
11. 原典翻訳⑭
12. 原典翻訳⑮
13. 原典翻訳⑯
14. 原典翻訳⑰
15. 原典翻訳⑱、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、テキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(60分)　事後学修として、授業で学んだことを復習し、理解を深めておくこと。(60分)

テキスト
担当者作成のテキストのコピーを配布する。

参考書・参考資料等
辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波全書)

学生に対する評価
学期末（前期・後期）の試験（80%）と、授業態度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）Sandhi法則を理解し、結合文字を分解できること。
（B）音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
（A）簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
（S）難解な仏教外文献を翻訳できること。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。　②受講者を5クラス程度に編成する。　④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。⑤受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢字ＩＳ							学 期	通年
副 題	書道学・漢字学の中国伝統的実践				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	M1-06-211	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。授業はすべて繁体字（旧漢字）をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

授業の到達目標
１.「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。２.「尚古思想」を根底に漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。３．最終的に作品創作をもって臨書で培った基礎を体現する。４．緑に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を実践でもって感じる意識を持つ。５．繁体字（旧漢字）の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。

授業計画
【前期】
1.ガイダンスによる書を学ぶ上での注意点及び漢字の歴史の概要
2.顔真卿「多寶塔碑」の形臨（2回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3.顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）②
4.顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）③
5.褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（2回目の受講生は「張玄墓誌」）①
6.褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）②
7.褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）③
8.前半半紙臨書作品の提出。
9.二つの法帖を比較臨書（形臨及び背臨）
10.自分で法帖を１つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11.背臨課題における自身の理解度を確認する。
12.写経創作①〔歴史的写経の意義〕
13.写経創作②〔写経体や異体字の認識〕
14.写経創作③〔願文の書き方〕
15.予備〔作品提出までの再度確認及び反復練習〕

【後期】
1.『嶧山刻石』の形臨（2回生以上は『礼器碑』）①
2.『嶧山刻石』の形臨（〃）②
3.『嶧山刻石』の形臨（〃）③
4.鄧石如『白氏草堂記』（2回生以上は『礼器碑』以外を自分で選択）①
5.鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨②
6.鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨③
7.前半半紙臨書作品の提出。呉讓之『崔子玉座右銘』の形臨①
8.呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨②
9.呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨③
10.自分で法帖を１つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。①
11.自分で法帖を１つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。②
12.半切の制作に至る独自の練習①
13.半切の制作に至る独自の練習②
14.半切の制作に至る独自の練習③
15.予備〔作品提出までの再度確認及び反復練習〕

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。また出来るだけ多くの展覧会を見て学んで来る（１２０分以上）

テキスト
・二玄社法書選（二玄社）：40顔真卿『多寶塔碑』、34褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉熙載集』２回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』/３『石門頌』、５『礼器碑』、８『曹全碑』、９『張遷碑』※写経用紙セットLA26-59（各書店にて購入）

参考書・参考資料等
・字書：『字源』、伏見冲敬編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隷字典』（雄山閣）等・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価
・基本的に提出作品による評価。・各学期ごとに採点し、平均点を算出する。そのため欠席が、各学期1/3を超えた場合その時点で失格とする。（欠席各－３点、遅刻各－１点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）法帖の形臨ができる。
（Ｂ）学んだ法帖の背臨ができる。
（Ａ）臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
（Ｓ）自身で研究した長落款〔跋文〕を含めた高いレベルでの創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法
・休み時間の間に毎回の課題作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフイードバックを行う。・毎回の課題は作品〔レポート〕として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他
・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと（ガイダンス時に説明する）。・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・休み時間のうちにすべての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。全出席が望ましい。年度末に開催される学外書道展に出品する。その際表具代等は、個人持ちとする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	梵字悉曇S							学 期	通年
副 題	梵字悉曇(書道)				授業方法	実技	担当者	添野了	
ナンバリング	M1-01-212	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語（真言・陀羅尼や種字）を読み書きするための学問（声明業）あるいは書道として相承されて来た。　慈雲尊者飲光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文（貝葉）を研究して、独自の書風（慈雲流）を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

【前期】

1.年間授業計画の説明
2.梵字・悉曇の伝来と歴史
3.テキストを読みながら説明
4.テキストを読みながら説明
5.筆を使って実習通摩多12文字
6.筆を使って実習通摩多12文字
7.筆を使って実習通摩多12文字
8.別摩多４文字他
9.別摩多５文字他
10.（ka）（kha）（ga）の３文字
11.（gha）（ṅa）の２文字
12.（ca）（cha）の２文字
13.（ja）（jha）（ña）の３文字
14.（ṭa）（ṭha）（ḍa）の３文字
15.（ḍha）（ṇa）の２文字

【後期】

1.筆を使って実習（ta）（tha）の２文字
2.〃（da）（dha）の２文字
3.〃（na）（pa）の２文字
4.〃（pha）（ba）の２文字
5.〃（bha）（ma）の２文字
6.〃（ya）（ra）（la）の３文字
7.〃（va）（śa）（ṣa）の３文字
8.〃（sa）（ha）の２文字
9.〃重字の２文字
10.塔婆の書き方
11.刷毛書体について
12.三尊仏について
13.光明真言①
14.光明真言②
15.諸真言について

準備学習(予習・復習)・時間

配布プリントに目を通し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）　授業で学んだ文字を練習しておくこと（90分）

テキスト

松本俊彰　『慈雲流悉曇梵字入門〔基礎編〕(応用編)』、高野山出版社、2003 年　　テキストについては授業にて指示する。適宜、プリント配布。

参考書・参考資料等

静慈圓『梵字悉曇慈雲流の意義と実習』、朱鷺書房、1997 年　児玉義隆『梵字必携書写と解読』、朱鷺書房、1991 年

学生に対する評価

授業参加の積極性（20%）、作品提出（80%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）習った「梵字」を正しく書くことが出来る。
（B）「梵字」に慣れて、上達が見られる。
（A）きれいな梵字を書くことが出来る。
（S）「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、書道を通して、その上達を指導する。

科目名	宗教思想史ＩＳ							学 期	後期
副 題	インドの宗教と思想				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	M1-03-038	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	Ａ・Ｉ

授業の目的と概要
インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

授業の到達目標
仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

授業計画
１.インドが発する人類の思想的課題－M.K.ガンディーの思想を手懸かりに
２.インドの歴史地理、インダス文明
３.ヴェーダ
４.ウパニシャッド
５.自由思想家たちとブッダの出現
６.ブッダの生涯とその教え
７.仏教の発展：大乗仏教と密教
８.叙事詩①：『ラーマーヤナ』
９.叙事詩②：『マハーバーラタ』
10.ヒンドゥー教の発展
11.正統バラモン教哲学
12.ヒンドゥー教とイスラーム教
13.インドと日本
14.タゴール、アンベードカルの思想
15.ガンディー再び

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと（90分）。 事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること（90分）。

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
山下博司『ヒンドゥー教　インドという謎』講談社、2004年。 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
期末レポート（80％）、授業中の発言等（20％）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
（Ｂ）インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
（Ａ）インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
（Ｓ）インド宗教思想史に関して独自の知見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻3回で1欠席に換算する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教思想史ⅡS							学 期	前期
副 題	日本人のメンタリティのあゆみ				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-03-039	実務経験の有無	無	関連DP	1,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。 本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の視点でその変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

授業の到達目標
①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。 ②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

授業計画
1.宗教のはじまりをさぐるー人類はいつ「心」を持つようになったのかー
2.日本人の基層信仰ー自然崇拝と八百万の神々ー
3.仏教の伝来と受容ー僧尼令にみる国家と仏教ー
4.大仏造立と神仏習合ー民衆への仏教のひろがりー
5.「平安仏教」の成立ー「日本仏教」の成立ー
6.来世への希求ー末法の到来ー
7.現世をどう生きるかー憂世の克服ー
8.東山文化の世界ー「わび・さび」の背景ー
9.日本的伝統の源流ー総合と啓蒙の時代ー
10.浮世へのまなざしー儒学による社会秩序の構築ー
11.日本古典への回帰ー“復古”への潮流ー
12.世直しの気運ー民衆宗教の勃興ー
13.廃仏毀釈と文化財保護ー精神文化の喪失ー
14.「総力戦体制」時代の宗教界ー「国家神道」体制の宗教ー
15.日本人のメンタリティのゆくえ

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

テキスト
テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等
①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年） ②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年） ③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）。

学生に対する評価
期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）日本人のメンタリティの歴史的変遷について説明することができる。
（B）日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
（A）日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べることができる。
（S）日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。 ②履修者は、博物館学芸員資格の取得を目指すことが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	哲学S							学 期	前期
副 題	哲学・宗教の歴史と基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-08-040	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
西洋・東洋の哲学史・宗教史から、代表的な哲学者・思想・事項を学ぶ。難解なものに向き合う姿勢を身に付ける。知的な快楽「？」「！」を体験する。人間とは何か、世界とは何か、宗教とは何かについて考える。自分の人生、現実の問題解決に哲学を活用し、自ら哲学する。

授業の到達目標
知っていること、理解していること、分からないことを自覚できる。じっくりと考える習慣を身に付ける。論理的に考えることができる。自分の言葉で論理的に説明できる。

授業計画
1. ガイダンス・哲学「言語哲学」①
2. 哲学「言語哲学」②
3. 中国思想「焚書坑儒」①
4. 中国思想「焚書坑儒」②
5. 宗教「政治と宗教（2）日本」①
6. 宗教「政治と宗教（2）日本」②
7. 哲学「論理学」①
8. 哲学「論理学」②
9. 中国思想「王陽明」①
10. 中国思想「王陽明」②
11. 宗教「移民と宗教」①
12. 宗教「移民と宗教」②
13. 哲学「バークリ」①
14. 哲学「バークリ」②
15. レポート講評

準備学習（予習・復習）・時間
テキストを音読する。(10分)　分からない単語を調べる。(10分)　理解できないことを事前に書き出す。(10分)　質問事項を考える。(30分)

テキスト
コピーを配布する。

参考書・参考資料等
納富信留ほか『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房、2019年 湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房、2022年 櫻井義秀・平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年

学生に対する評価
論述形式の期末試験（100%）　合格点に達しない場合、授業中の質問メモを勘案する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
○質問や意見については、授業内で対応する。　○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	心理学ＩＳ							学 期	前期
副 題	心理学の歴史と基礎Ｉ				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	M1-10-041	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達的視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標
心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画
1.オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2.実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3.感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4.感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5.記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6.記憶のﾒｶﾆｽﾞﾑについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7.記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8.学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9.学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10.学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11.言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12.言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13.言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14.意識と認知システムについて学ぶ。
15.まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
梅本尭夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
森津太子・森公美子（編著）『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇（編）『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本尭夫・大山正『心理学への招待　こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

学生に対する評価
レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを理解している。
（A）感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを説明できる。
（S）感覚・記憶・学習・言語と思考および脳生理学の理論から心のメカニズムを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット（学内のWiFi利用可）に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、LMSを通じて授業の連絡を行ったり，感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、心理支援の実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	心理学ⅡS							学 期	後期
副 題	心理学の歴史と基礎Ⅱ				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	M1-10-042	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標
社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画
1.オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2.動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3.動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4.動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5.性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6.性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7.性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8.人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9.人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10.人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11.対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12.対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13.対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的手抜き・集団規範＞
14.個人と社会の心理について学ぶ。
15.まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
梅本尭夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
森津太子・森公美子編著『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇編『図説心理学入門』、誠信書房、2005年
梅本尭夫・大山正『心理学への招待　こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

学生に対する評価
レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
（B）基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学（社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学）の領域を理解する。
（A）心理学の基礎理論か全般を説明できる。
（S）心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット（学内のWiFi利用可）に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、LMSを通じて授業の連絡を行ったり，感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、心理支援の実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	密教学概論S							学 期	後期
副 題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-213	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標
密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画
1. ガイダンス・密教総論
2. インド密教
3. チベット密教
4. 中国・朝鮮密教
5. 日本密教
6. 密教の聖典（1）―『大日経』―
7. 密教の聖典（2）―『金剛頂経』―
8. 密教の聖典（3）―『理趣経』―
9. 密教の聖典（4）―『菩提心論』・『釈摩訶衍論』―
10. 密教の曼荼羅（１）―胎蔵曼荼羅―
11. 密教の曼荼羅（２）―金剛界曼荼羅―
12. 密教の成仏論
13. 密教の仏身論
14. 密教の灌頂
15. まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30分）。 ・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60分）。

テキスト
講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991年）など。

学生に対する評価
試験（60％）、講義参加の積極性（40％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な密教の思想を理解できる。
（B）基本的な密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
ICTを活用した講義である。

科目名	仏教学概論S							学 期	前期
副 題	仏教学の思想				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-02-214	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標
初期仏教と大乗思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容①　南アジア
3. 仏教の伝達と受容②　西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③　東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④　東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教①　ブッダの生涯
8. 初期仏教②　ブッダの思想
9. 初期仏教③　仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教①　アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教②　部派における律の違い
12. 部派仏教③　部派における思想的違い
13. 大乗思想の起源①　僧院生活と大乗思想
14. 大乗思想の起源②　聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90分）。

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
①馬場紀寿『初期仏教―ブッダの思想をたどる』（岩波新書）、2018年、②「仏教の思想」２・３・４（角川文庫ソフィア）、1996-1997年、③グレゴリー・ショペン・小谷信千代訳　『大乗仏教興起時代 インドの僧院生活〈新装版〉』、春秋社、2018年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）初期仏教と大乗思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
（A）部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
（S）アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	密教史概説S							学 期	後期
副 題	密教の歴史				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-01-215	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
インドで生まれた密教聖典が仏教のなかでどのように位置付けられ、そののちアジア各地にいったいどのように伝わり受け入れられていったのか。密教の伝達と受容の歴史を聖典あるいは儀礼・美術資料における実際の内容に触れ、綜合的文化としての密教を学ぶ。

授業の到達目標
大乗仏教における密教の位置付けについて両者の関係とともに理解できる。密教聖典分類法をその具体的な内容とともに提示できる。密教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 密教の伝達と受容①　南アジア
3. 密教の伝達と受容②　ヒマラヤ・チベット文化圏
4. 密教の伝達と受容③　東南アジア
5. 密教の伝達と受容④　東アジア
6. 密教と文化①　アーユルヴェーダと陀羅尼聖典
7. インド密教①　密教とはなにか・陀羅尼と持明蔵
8. インド密教②　悟りへの捷径・『金剛頂経』と灌頂次第
9. ヒマラヤ・チベット密教　チベットのルネサンス
10. 密教と文化②　寺院建築術と曼荼羅儀礼
11. 中国・朝鮮半島の密教
12. 日本密教①　密教の伝播ならびに日本密教の興起
13. 日本密教②　密教の分化と真言教学の興隆
14. 日本密教③　新義真言宗の発展および近代における密教徒の動向
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90分）。

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教の歴史』（サーラ叢書）、京都・平楽寺書店、1991年、②「シリーズ密教」（新装版）、東京・春秋社、2005年、③田中公明『曼荼羅イコノロジー』東京・春秋社、1987年、④森雅秀 『インド密教の儀礼世界』（金沢大学人間社会研究叢書）、京都・世界思想社、2011年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）大乗思想と密教との関係を文化・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）密教聖典分類法について聖典成立史を踏まえながら具体的な名称とともに説明できる。
（A）日本密教をも射程に入れ、密教徒のグループ間における思想的な違いを簡単に説明できる。
（S）アジアにおける密教の伝達経路の大まかな流れを理解し、文化・思想的な変遷とともに全体を概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	仏教史概説S							学 期	前期
副 題	仏教の歴史				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-02-216	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標
初期仏教と大乗思想との言語・思想的な特徴を理解できる。代表的な大乗思想の種類をその聖典とともに提示できる。サンスクリット文化に仏教が与えた影響を簡潔に説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 大乗思想①　般若思想①　般若経系聖典群
3. 大乗思想②　般若思想②　般若経注釈群
4. 大乗思想③　浄土思想
5. 大乗思想④　法華・華厳・如来蔵思想
6. サンスクリット文化と仏教①　仏伝文学
7. サンスクリット文化と仏教②　菩薩の思想
8. 大乗思想⑤　中観思想①　ナーガールジュナ・アーリヤデーヴァ
9. 大乗思想⑥　中観思想②　自立派と帰謬派
10. 大乗思想⑦　唯識思想①　マイトレーヤ、アサンガ・ヴァスバンドゥ
11. 大乗思想⑧　唯識思想②　有相派と無相派
12. サンスクリット文化と仏教③　大僧院における詩作教師
13. 大乗思想⑨　認識論と論理学①　ナーガールジュナ
14. 大乗思想⑩　認識論と論理学②　ディグナーガとダルマキールティ
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90分）。

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
①「シリーズ大乗仏教」全10巻、春秋社、2011-2014年、②「仏教の思想」２・３・４（角川文庫ソフィア）、1996-1997年、③梶山雄一『大乗仏教の誕生　「さとり」と「廻向」』（講談社学術文庫）、2021年、④桂紹隆『インド人の論理学 問答法から帰納法へ』（法蔵館文庫）、2021年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）初期仏教と大乗思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）サンスクリット文化と仏教との関わりを簡潔に説明できる。
（A）いわゆる仏教四学派（説一切有部・経量部・唯識・中観）の思想的特徴を説明できる。
（S）仏教における認識論と論理学の位置付けについて簡単に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	歴史学S							学 期	前期
副 題	歴史学からみた中世高野山と史料採訪の意義				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M2-12-217	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

本年度の本講義の目的は、二つからなる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について学び、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係、金剛三昧院・一心院の創立について理解を深める。後半では、近世における歴史学の発達について学び、『大日本史』の編纂過程、佐々宗淳の史料採訪を通して、史料批判の発達、史料調査の意義について考える。なお、「授業計画」に示す内容は目安に過ぎず、進度や学生の理解度次第で変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

①中世前期の高野山について、政治史との関係を踏まえて説明できる能力を身につける。 ②歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。 ③研究史の重要性、史料調査の意義について、理解できるようになる。

授業計画

1. 高野山町石をめぐる歴史と文化①―卒塔婆造立の功徳と弘法大師信仰―
2. 高野山町石をめぐる歴史と文化②―中世前期の高野参詣―
3. 高野山町石をめぐる歴史と文化③―鎌倉時代の高野山と安達泰盛―
4. 北条政子と高野山①―源氏三代と高野山―
5. 北条政子と高野山②―貞暁と一心院―
6. 北条政子と高野山③―金剛三昧院の造立をめぐって―
7. 『金剛三昧院文書』を読み解く①―鎌倉幕府発給文書―
8. 『金剛三昧院文書』を読み解く②―室町幕府発給文書―
9. 『金剛三昧院文書』を読み解く③―新出文書―
10. 江戸時代の歴史学と史料採訪
11. 佐々宗淳による金剛寺文書・観心寺文書調査
12. 佐々宗淳による高野山文書調査①―『大日本史編纂記録』を通して―
13. 佐々宗淳による高野山文書調査②―『南行雑録』の価値―
14. 『大日本史編纂記録』を読み解く①―史料採訪の苦心①―
15. 『大日本史編纂記録』を読み解く②―史料採訪の苦心②―

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①上横手雅敬『鎌倉時代』（吉川弘文館、1994年） ②山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014年） ③久保田収『近世史学史論考』（皇學館大学出版部、1968年） ④但野正弘『新版佐々介三郎宗淳』（錦正社、1988年）

学生に対する評価

レポート（100%） ※3000字以上

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。

（B）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。

（A）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。

（S）高野山と公武権力の関係、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他

熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。 基本的に講義形式を取るが、一部の回は古文書の読解と、それにもとづく議論も行なうアクティブ・ラーニングであるので、受講生の積極的参加が必要である。

科目名	宗教学ＩＳ							学 期	前期
副 題	宗教学入門				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-268	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	Ａ・Ｉ

授業の目的と概要
宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

授業の到達目標
19世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。 現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

授業計画
１.ガイダンスの後、テキスト第１章「宗教学の立場と分野　1」を読む
２.テキスト第１章「宗教学の立場と分野　2」を読む
３.テキスト第１章「宗教学の立場と分野　3」を読む
４.テキスト第２章「宗教の原初形態　1」を読む
５.テキスト第２章「宗教の原初形態　2」を読む
６.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　1」を読む
７.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　2」を読む
８.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　3」を読む
９.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　4」を読む
10.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　5」を読む
11.テキスト第４章「宗教の諸類型　1」を読む
12.テキスト第４章「宗教の諸類型　2」を読む
13.テキスト第４章「宗教の諸類型　3，4」を読む
14.テキスト第４章「宗教の諸類型　5，6」を読む
15.まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90分）。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

テキスト
脇本平也『宗教学入門』講談社、1997年

参考書・参考資料等
ジョージ・フレイザー『図説　金枝篇』（上）（下）、講談社、2011年

学生に対する評価
期末レポート（70％）、授業中の発言、発表（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）テキストを正確に読み解くことができる。
（Ｂ）テキストを要約し、批判的に検討することができる。
（Ａ）宗教学の代表的理論を説明することができる。
（Ｓ）社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学ⅡS							学 期	後期
副 題	宗教と公共性・差別				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-277	実務経験の有無	無	関連DP	1,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
近代国民国家が宗教とどのような関係を持ち、どのように公共性を創出してきたか、そして同時に、どのように人びとを排除してきたのか。理論的考察やさまざまな事例の紹介を通じて習得する。

授業の到達目標
世俗主義の基本的理解を得るとともに、比較宗教の観点から宗教と差別の多様な事例について知識を深める。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

授業計画
1.ガイダンスの後、テキストの概略を紹介する
2.テキスト序章「「聖なるもの」と「統治」の系譜」を読む
3.テキスト第1章「近代主権国家における排除と差別の論理」を読む
4.テキスト第2章「神・天皇・非人」を読む
5.テキスト第3章「情動的存在と「モノ」の政治」を読む
6.テキスト第4章「被差別／差別の主張とカースト制度」を読む
7.テキスト第5章「ディアスポラと国民国家」を読む
8.テキスト第6章「仏蘭西の世俗主義と「イスラムのヴェール問題」」を読む
9.テキスト第7章「〈ラルシュ〉共同体運動の「リアライゼーション」」を読む
10.テキスト第8章「近代日本における生-権力と包摂／排除のポリティクス」を読む
11.テキスト第9章「主権と「天皇の赤子」」を読む
12.テキスト第10章「「狐持ち」と結婚忌避」を読む
13.テキスト第11章「低線量被ばく問題と現代社会」を読む
14.テキスト終章「「差別」を超えて」を読む
15.まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90分）。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

テキスト
上村静他編『差別の構造と国民国家――宗教と公共性』（法蔵館、2021年）

参考書・参考資料等
佐々田悠他編『差別と宗教の日本史――救済の〈可能性〉を問う』（法蔵館、2022年）

学生に対する評価
期末レポート（70%）、授業中の発言、発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）聖俗論の変遷を説明できる。
（A）国民国家と宗教の関係を具体的な事例から説明できる。
（S）主権と統治性の観点から社会・文化現象を読み解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ＩＳ							学 期	通年
副 題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-218	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	Ａ・Ｉ

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1.講義の進め方とテキストの紹介
2.成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3.『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4.四声読み
5.『即身成仏義』を読む （1）発端問答
6.　〃　（2）二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』
7.　〃　（3）二経一論八箇の証文② 『大日経』
8.　〃　（4）二経一論八箇の証文③ 『菩提心論』
9.　〃　（5）二頌八句① 即身の頌（前編）
10.　〃　（6）二頌八句② 即身の頌（後編）
11.　〃　（7）二頌八句③ 成仏の頌（前編）
12.　〃　（8）二頌八句④ 成仏の頌（後編）
13.　〃　（9）「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義（前編）
14.　〃　(10)「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義（後編）
15.前期のまとめ―即身成仏思想の特徴

【後期】

1.概論と前期の復習
2.『即身成仏義』を読む (11)「六大能生」①
3.　〃　(12)「六大能生」②
4.　〃　(13)「六大の顕密／無碍自在の身」
5.　〃　(14)「四種曼荼各不離」 ① 三種秘密身
6.　〃　(15)「四種曼荼各不離」 ② 四種曼荼羅・四種智印
7.　〃　(16)「三密加持速疾顕」 ① 法仏の三密と三密行
8.　〃　(17)「三密加持速疾顕」 ② 『五秘密儀軌』
9.　〃　(18)「三密加持速疾顕」 ③ 加と持
10.　〃　(19)「重重帝網名即身」
11.　〃　(20)「法然具足薩般若」
12.　〃　(21)「心数心王過刹塵」
13.　〃　(22)「各具五智無際智」
14.　〃　(23)「円鏡力故実覚智」
15.後期のまとめ―即身成仏とは何か

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60分）。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60分）。 ・その他の学習については講義内で指示する（60分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部 ・毎回配布する資料

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社 ②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の積極的な発言（30%）、毎回の小レポート（30%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）（C）『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
（B）（B）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
（A）（A）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
（S）（S）上記（C）～（A）を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ⅡS							学 期	通年
副 題	『三教指帰』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	M3-01-065	実務経験の有無	無	関連DP	1，2	単位数	4	他	Ⅰ

授業の目的と概要
『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾瞽指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。 『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。 四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解読する。

授業の到達目標
『聾瞽指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。 偽作説のどこが誤りであるかを把握する。 駢儷文の文章構造を理解できるようになる。 十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画
【前期】
1.『聾瞽指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯。
2.『聾瞽指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴。
3.両『指帰』の本文比較①対偶・訂正。
4.両『指帰』の本文比較②音韻・表現。
5.両『指帰』末尾の十韻詩の比較。音韻の病と技巧。
6.『三教指帰』の済暹師偽作説の誤りについて。
7.再偽作説の誤り①文字。
8.再偽作説の誤り②音韻。
9.再偽作説の誤り③意味内容。
10.『三教指帰』を読む①鼈毛先生論：鼈毛の風貌・教養・蛭牙の人となり。
11.『三教指帰』を読む②鼈毛先生論：兎角の要請と鼈毛の応答。
12.『三教指帰』を読む③鼈毛先生論：世間の悪・人格を磨くべき事・蛭牙の品行に対する叱責。
13.『三教指帰』を読む④鼈毛先生論：行動規範の説示・忠孝の実践・医工と学問の勧め。
14.『三教指帰』を読む⑤鼈毛先生論：重用されて高官となるべきこと・妻を娶り友人と宴をする楽しさ。
15.『三教指帰』を読む⑥鼈毛先生論：蛭牙に立身出世を諭す・蛭牙が鼈毛に屈する・兎角の賛辞。

【後期】
1.『三教指帰』を読む⑦虚亡隠士論：虚亡の批判と鼈毛の懇請。
2.『三教指帰』を読む⑧虚亡隠士論：方術・道術の開示。
3.『三教指帰』を読む⑨虚亡隠士論：高潔を保ち、高禄と女色から離れるべき事。
4.『三教指帰』を読む⑩虚亡隠士論：神薬の服用・効用。
5.『三教指帰』を読む⑪虚亡隠士論：仙術による長寿・鼈毛の謝辞。
6.『三教指帰』を読む⑫仮名乞児論：仮名の出立ち・外見・ある人の難詰①。
7.『三教指帰』を読む⑬仮名乞児論：ある人の難詰②・仮名の反論。
8.『三教指帰』を読む⑭仮名乞児論：写経詩・仮名の書・仮名が兎角の館に到る。
9.『三教指帰』を読む⑮仮名乞児論：鼈毛と虚亡の対戦・仮名と鼈毛の問答・仮名と虚亡の問答。
10.『三教指帰』を読む⑯仮名乞児論：観無常試（無常・身体・美人）。
11.『三教指帰』を読む⑰仮名乞児論：観無常試（家族・友人・若き男女・貴賤）。
12.『三教指帰』を読む⑱仮名乞児論：観無常試（他説救）無常事・生前に精進すべき事。
13.『三教指帰』を読む⑲仮名乞児論：鼈毛の問答・説教要請・生死海試（生死海に溺れる者）。
14.『三教指帰』を読む⑳仮名乞児論：生死海試（生死海に溺れる者を魚類と鳥類に譬える）。
15.『三教指帰』を読む㉑仮名乞児論：大菩提の果・鼈毛らの謝辞。

準備学習（予習・復習）・時間
（復習）前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの＜返り点＞の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること（90分）。 （予習）次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの＜書き下し文＞と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと（90分）。

テキスト
大柴清圓『聾瞽指帰と三教指帰　―空海大師真作の証明―』大遍照院、2022年（アマゾンで購入）

参考書・参考資料等
渡辺照宏・宮坂宥勝『三教指帰　性霊集　日本古典文学大系』岩波書店、1965年。 福永光司『空海　三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価
学期末試験（50%）　発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
（B）学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
（A）学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
（S）学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法
最終授業で全体に対するフードバックを行う。

その他
「『三教指帰』を読む」は、『聾瞽指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	祖典講読ⅡＴ							学 期	通年
副 題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-067	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	I

授業の目的と概要
弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想（特に『大日経』が説く言語哲学）について理解を深める。

授業の到達目標
漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

【前期】
1.『吽字義』とは何か（書誌的解説）
2.梵字の基礎知識を学ぶ
3.『大日経』の言語論①
4.『大日経』の言語論②
5.『大日経』の言語論③
6.吽字の字相
7.吽字の字義
8.阿字の字義（略説）
9.阿字の実義（本初不生の実義）
10.阿字の実義（迷悟の所見、経説）
11.汙字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
12.汙字の実義（小乗・大乗よりの実践）
13.汙字の実義（六義よりの実践①）
14.汙字の実義（六義よりの実践②）
15.総括

【後期】
1.汙字の実義（字門道よりの実践①）
2.汙字の実義（字門道よりの実践②）
3.汙字の実義（字門道よりの実践③）
4.偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
5.偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
6.麼字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
7.麼字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
8.麼字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
9.吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
10.吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
11.吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
12.吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
13.吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣）
14.総括①
15.総括②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト
『十巻章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』/ 松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等
弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』（高野山大学密教文化研究所）/ 竹村牧男『空海の言語哲学』（春秋社） など

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
（B）漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読S							学 期	通年
副 題	両部の大経を読む				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-219	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	I

授業の目的と概要
真言宗で「両部の大経」として最も大切にされる『大日経』と『金剛頂経』を読みながら、密教の基本的な思想を理解する。前期には、『大日経』の中から、教理を説く「住心品」と曼荼羅に関する実践法を説く「具縁品」を取り上げて通読する。後期には、『金剛頂経』（不空訳三巻品）を読みながら、即身成仏の理論と金剛界曼荼羅のシステムを学ぶ。漢訳テキストの講読であるが、必要に応じてサンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参照する（講師が和訳を提示）。

授業の到達目標
密教の専門用語の意味を理解しながら、漢訳の密教経典を読むことができるようになる。

授業計画

【前期】
1.インド密教史概説
2.『大日経』とはどのような経典か？
3.「住心品」を読む①（序分、三句段）
4.「住心品」を読む②（三句段の続き）
5.「住心品」を読む③（九句段、外教段、八心段）
6.「住心品」を読む④（六十心段）
7.「住心段」を読む⑤（三劫段、十地段、六六畏段、十喩段）
8.「具縁品」を読む①（作壇法）
9.「具縁品」を読む②（三昧耶戒作法）
10.「具縁品」を読む③（曼荼羅を描く１）
11.「具縁品」を読む④（曼荼羅を描く２）
12.「具縁品」を読む⑤（五種三昧道）
13.「具縁品」を読む⑥（真言とは何か？）
14.「具縁品」を読む⑦（曼荼羅の供養と灌頂作法）
15.総括

【後期】
1.インド密教史における『金剛頂経』の位置
2.『金剛頂経』の諸本（広本、三十巻品、三巻品）
3.不空訳三巻品の構成
4.五相成身観と四仏の出現
5.金剛界曼荼羅の構造
6.金剛薩埵・金剛王・金剛愛・金剛喜の出生
7.金剛宝・金剛光・金剛幢・金剛笑の出生
8.金剛法・金剛利・金剛因・金剛語の出生
9.四波羅蜜、八供養、四摂菩薩の出生
10.一切如来の集会と百八名勧請、図絵曼荼羅
11.灌頂作法①
12.灌頂作法②
13.さまざまな成就法
14.四種印智と諸儀則
15.序分を読む（総括に代えて）

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト
漢訳の『大日経』と『金剛頂経』　※コピーを配布　※福田亮成『新国訳大蔵経・密教部１大日経』（大蔵出版） / 松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部４　金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版）

参考書・参考資料等
松長有慶『大日経住心品講讃嘆』（大法輪閣） / 頼富本宏『『大日経』入門 』（大法輪閣） / 頼富本宏『『金剛頂経』入門 』（大法輪閣） / 津田真一『梵文和訳 金剛頂経』（春秋社） / 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） / 田中公明『インド密教史』（春秋社）　ほか

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
（B）『大日経』『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）『大日経』『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『大日経』『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することがき、その結果を論理的に表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読T							学 期	通年
副 題	『理趣経』を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M3-01-220	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

真言宗では、『大日経』と『初会金剛頂経』という経典が「両部の大経」として重要視されているが、両経典が日常的に読誦されることはない。この授業で扱う『理趣経』は、真言宗における常用経典であり、現在も様々な場面で真言僧たちに読誦されているため、真言密教を深く理解するためには同経典の原語による読解が不可欠である。 この授業は、学生が密教経典を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

授業の到達目標

・経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができるようになる。 ・経典の単語の意味を、インドや中国で成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。 ・サンスクリット語やチベット語で記された密教経典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

【前期】

1.イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2.インド密教史の概説（1）：初期密教
3.インド密教史の概説（2）：中期密教
4.インド密教史の概説（3）：後期密教
5.『理趣経』の概要
6.『金剛頂経』系統の密教経典
7.『理趣経』と『初会金剛頂経』の関係性
8.『理趣経』の読解（1）：序分
9.『理趣経』の読解（2）：初段 1
10.『理趣経』の読解（3）：初段 2
11.『理趣経』の読解（4）：第二段
12.『理趣経』の読解（5）：第三段
13.『理趣経』の読解（6）：第四段
14.『理趣経』の読解（7）：第五段
15.『理趣経』の読解（8）：第六段

【後期】

1.『理趣経』の読解（9）：第七段
2.『理趣経』の読解（10）：第八段
3.『理趣経』の読解（11）：第九段
4.『理趣経』の読解（12）：第十段
5.『理趣経』の読解（13）：第十一段
6.『理趣経』の読解（14）：第十二段
7.『理趣経』の読解（15）：第十三段
8.『理趣経』の読解（16）：第十四段
9.『理趣経』の読解（17）：第十五段
10.『理趣経』の読解（18）：第十六段
11.『理趣経』の読解（19）：第十七段・百字の偈
12.学生による『理趣経』についての調査報告（1）
13.学生による『理趣経』についての調査報告（2）
14.学生による『理趣経』についての調査報告（3）
15.学生による『理趣経』についての調査報告（4）

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、授業内で指定した範囲の専門用語を、辞書などで確認しておくこと（120分）。 ・事後学習として、講義内容を再確認した上で、紹介された論文などを参照しておくこと（60分）。

テキスト

・宮坂宥勝『密教経典 ―大日経・理趣経・大日経疏・理趣釈―』、講談社、2011年

参考書・参考資料等

・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年 ・高橋尚夫『般若理趣経の基礎的研究』、ノンブル社、2022年

学生に対する評価

発表（75%）、調査報告（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『理趣経』に登場する専門用語を理解することができる。
（B）『理趣経』の漢訳を、ある程度の精度で理解することができる。
（A）『理趣経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『理趣経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・学生による調査報告については、実施後すぐにコメントと評点を行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学特殊講義S							学 期	前期
副 題	胎蔵曼荼羅を読み解く				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-221	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
はじめに「曼荼羅とは何か？」をインド密教の歴史とともに解説し、弘法大師・空海が日本に伝えた胎蔵曼荼羅・金剛界曼荼羅の両部曼荼羅のうち、『大日経』に説かれる胎蔵曼荼羅を取り上げ、その図像の解析をしながら、そこに象徴される思想を読み解く。

授業の到達目標
密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画
1.いろいろな曼荼羅を見てみよう
2.密教の歴史と曼荼羅
3.曼荼羅とは何か？①
4.曼荼羅とは何か？②
5.『大日経』概説
6.『大日経』が説く胎蔵曼荼羅
7.胎蔵曼荼羅の図像の発展
8.中台八葉院
9.蓮華部院
10.金剛手院
11.遍知院と持明院
12.釈迦院と文殊院
13.虚空蔵院、地蔵院、除蓋障院
14.外金剛部院の神々①
15.外金剛部院の神々②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト
田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等
田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンダラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) など

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）曼荼羅とは何かが説明できる。
（B）胎蔵曼荼羅の全体構造を把握し、説明することができる。
（A）胎蔵曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
（S）胎蔵曼荼羅を『大日経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義T							学 期	後期
副 題	金剛界曼荼羅を読み解く				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-222	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
両部曼荼羅のうち、『金剛頂経』に説かれる金剛界曼荼羅について、その図像を解析しながら、そこに象徴される思想を読み解く。日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本のほか、インドやチベットの金剛界曼荼羅についても紹介し、さらに、金剛界曼荼羅から発展した後期密教の曼荼羅にも触れてみたい。

授業の到達目標
密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画
1.『金剛頂経』概説
2.『金剛頂経』と曼荼羅
3.金剛界曼荼羅の構造
4.金剛界五仏
5.十六大菩薩①
6.十六大菩薩②
7.四波羅蜜菩薩と八供養菩薩
8.四摂菩薩と賢劫尊
9.外金剛部の神々
10.六種曼荼羅の図像表現の方法
11.「降三世品」「遍調伏品」「一切義成就品」の曼荼羅の特徴
12.日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本
13.インドの金剛界系遺品とチベットの金剛界曼荼羅
14.後期密教の曼荼羅①
15.後期密教の曼荼羅②

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト
田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等
田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンダラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) など

学生に対する評価
試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 金剛界曼荼羅の構成について説明できる。
(B) 金剛界曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
(A) 金剛界曼荼羅を『金剛頂経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
(S)『金剛頂経』と金剛界曼荼羅が密教史の上で果たした役割を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはEメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義U							学 期	後期
副 題	四国遍路の研究　澄禅の日記を読む				授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔	
ナンバリング	M3-01-223	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
四国遍路について書かれた江戸時代初期の記録、澄禅の『四国辺路日記』を取り上げる。承応2年（1653）に高野山を出発し、四国一周遍路をした日記である。現存する文献史料としては最古級であり、修験者のものであった遍路が一般化する時代の先駆けとなる貴重な記録である。現在の遍路道と比較しながら、変遷をたどるとともに、江戸時代初期の風俗や宗教についても触れる。

授業の到達目標
現在の四国遍路を考えるうえで、その原点となる、江戸時代の遍路の実態を理解する。現在と比較することで、歴史的、宗教的、社会的、民俗学的側面から遍路を考えることができるようになる。

授業計画
1．四国遍路の歴史概論
2．『四国辺路日記』講読　高野山～徳島
3．『四国辺路日記』講読　徳島中部
4．『四国辺路日記』講読　徳島南部
5．『四国辺路日記』講読　徳島南部～高知東部
6．『四国辺路日記』講読　高知東部～中部
7．『四国辺路日記』講読　高知中部
8．『四国辺路日記』講読　高知西部
9．『四国辺路日記』講読　愛媛南部
10.『四国辺路日記』講読　愛媛中部
11.『四国辺路日記』講読　愛媛東部
12.『四国辺路日記』講読　香川西部
13.『四国辺路日記』講読　香川中部～東部
14.『四国辺路日記』講読　香川東部～徳島北部
15.総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前に次の講義で扱う部分を読み、疑問点を整理しておくこと（60分）。講義の一部は発表形式にするので、当番に当たった者は事前に十分に下調べをして発表に臨むこと（120～300分）。講義中に出てきた検討課題をまとめて、次に備える（60分）。

テキスト
澄禅『四国辺路日記』（コピーを配布する）

参考書・参考資料等
柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』（法蔵館）、同『四国遍路　こころの旅路』（慶友社）、伊予史談会『四国霊場記集』（愛媛県教育図書）、近藤喜博『四国遍路研究』（三弥井書店）、宮崎忍勝『澄禅四国遍路日記』（大東出版社）、頼富本宏・白木利幸『四国遍路の研究』（日本国際文化センター）など

学生に対する評価
レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）四国遍路について簡単に説明できる。
（B）澄禅の日記の概要について説明できる。
（A）澄禅の日記の内容に基き、江戸時代の四国遍路の状況を具体的に説明できる。
（S）江戸時代の資料を基に、当時の遍路の状況と、現在につながる歴史的変遷を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、次回講義以降に回答する。疑問点については受講者も交え討議する。

その他
四国遍路とは何かを事前に知っておくこと。できる限り、前期の「巡礼・遍路T」との通年受講が望ましい。これまで四国遍路をしたことのない人は、夏休み等を利用して、実際に遍路体験してみるといい。できる限り実際に巡拝することを勧める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
四国遍路120周以上の大先達、30年以上の実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。この間、遍路道については、澄禅の道と現在の道との比較をはじめ、歴史的な変遷について実地調査した経験を基に講義する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているので、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	仏教学特殊講義S							学 期	前期
副 題	古代インド思想から見た仏教				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-224	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
バラモン教の思想と仏教のそれの徹底的な相違点を解明する。

授業の到達目標
バラモン教の思想と仏教のそれの徹底的な相違点を理解すること。

授業計画
1. オリエンテーション
2. バラモン教の誕生
3. バラモン教思想の特徴①
4. バラモン教思想の特徴②
5. ウパニシャッド哲学の特徴①
6. ウパニシャッド哲学の特徴②
7. 初期仏教思想①
8. 初期仏教思想②
9. 大乗思想の特徴①
10. 大乗思想の特徴②
11. 宗教の誕生
12. 密教とは何か？①
13. 密教とは何か？②
14. まとめ
15. 試験もしくはレポート

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、次回のテーマについて調べておくこと。（６０分）、復習として、講義で行った内容を見直し、理解を深めること。（９０分）

テキスト
担当者作製『仏教とバラモン教』の資料を配布する。

参考書・参考資料等
参考書、参考資料は、授業内で必要に応じて紹介する。

学生に対する評価
学期末に行う試験もしくはレポートで評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）バラモン教思想の特徴を理解している。
（B）初期仏教における要の思想を理解している。
（A）初期仏教と大乗の違いを説明することができる。
（S）密教とは何かについて答えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は、授業の中で指示する

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義T							学 期	前期
副 題	心とはなにかⅠ				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-225	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標
仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2.心について－ことばの多義性－
3.心について－各宗教の思想－
4.心について－現代の場合－
5.心について－仏教の思想－
6.仏教について－歴史的多様性－
7.仏教について－地域的多様性－
8.ゴータマ・ブッダ－苦の自覚－
9.ゴータマ・ブッダ－苦からの解放－
10.ゴータマ・ブッダ－直弟子たち－
11.初期仏教経典－釈迦の直説は現存するか－
12.最古層の仏典－心への配慮－
13.最古層の仏典－執着と煩悩－
14.初期仏教－五蘊、心・意・識－
15.授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

テキスト
竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布） 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等
①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学特殊講義U							学 期	前期
副 題	マインドフルネス				授業方法	講義	担当者	山本和美	
ナンバリング	N2-10-271	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

授業の到達目標

授業計画

1.臨床心理学におけるマインドフルネスの位置づけ
2.今という瞬間を意識的に生きる
3.マインドフルネス瞑想：基本的な心構え
4.呼吸・身体を感じとる
5.心と身体を結びつける
6.ものごとにとらえ方：思考パターン
7.日常生活における快・不快体験
8.心と身体の関係：ストレス反応
9.心と身体の関係：ストレス対応
10.対人ストレス：コミュニケーション
11.治療的関係
12.共感・コンパッション
13.マインドフルネスの科学的知見
14.日常生活でのマインドフルネスの実践
15.全体の振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として前回の講義と実習内容について復習しておく　(30分)　・実習内容を振り返り、実習を継続し、自身の体験を記録する　(120分)

テキスト

その都度プリントを配布する。

参考書・参考資料等

井上ウィマラ著『呼吸による気づきの教え』佼成出版社、2005年 井上ウィマラ他『仏教心理学キーワード事典』春秋社、2012年 春木豊訳『マインドフルネスストレス低減法』北大路書房、2007年

学生に対する評価

レポート（70%）・授業参加の姿勢（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）マインドフルネスの基本的な考え方を理解する。
（B）マインドフルネスを通じて、自己の感覚と向き合うことができる。
（A）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づく。
（S）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・アクティブ・ラーニング（グループワーク、実習）を取り入れた科目である。　・身体を活用したワークが含まれるため、学生は動きやすい服装を着用すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

臨床心理士として心身医学領域での実務経験をもつ教員により、集団・個人を対象としたカウンセリングの基本およびマインドフルネスの実務経験を生かして体験的に学修する授業を行い、学生自身が自己をより良く理解することを通じて、対人援助の場面での適切な対応につなげる能力を身に付けさせる。

科目名	真言密教特殊講義S							学 期	前期
副 題	真言密教の儀礼Ⅰ				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-227	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く理解するために、真言密教における実践行の解説を行い、オンラインでも実習可能なものは実際に体験する。

授業の到達目標
・真言密教の実践行がいかなるものかを正しく理解する。 ・オンラインも通して、真言密教の実践にふれる。

授業計画
1.ガイダンス・真言密教の聖典紹介
2.真言密教の読経―在家用『仏前勤行次第』の解説―
3.真言密教の読経―在家用『仏前勤行次第』の読誦（1)・『観音経』の解説と読誦―
4.真言密教の読経―在家用『仏前勤行次第』の読誦（2)・『理趣経』の解説―
5.真言密教の読経―訓読『般若心経』の解説と読誦―
6.真言密教の声明―解説と実唱―
7.真言密教の仏像―解説―
8.真言密教の行法―護摩行の解説―
9.真言密教の葬制―古代～現代の日本における葬制解説―
10.真言密教の回向法―十三仏信仰解説―
11.真言密教の祈願法―密教占星術解説―
12.真言密教の戒律―解説―
13.真言密教の灌頂―解説―
14.高野山の精進料理―解説―
15.巡礼・遍路―解説―

準備学習（予習・復習）・時間
・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること（30分)。 ・事後学習として、学んだことを振り返り、整理しておくこと（60分)。

テキスト
・講師が配付資料を用意し、オンライン受講の場合は事前に配布する。

参考書・参考資料等
講義中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（60%)、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義での実践行に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ・ICTを活用した講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	真言密教特殊講義T							学 期	後期
副 題	梵字悉曇(慈雲流)の意義と実習				授業方法	講義	担当者	五十嵐啓道	
ナンバリング	M1-01-228	実務経験の有無	有	関連DP	1,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
悉曇は弘法大師空海によって密教と共に日本に請来され、梵語（真言陀羅尼や種子）を読み書きするための学問あるいは書道として相承されて来た。 慈雲尊者飲光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあら ゆる梵文資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文（貝葉）を研究して中国風な変化の影響を離れた独自の書風（慈雲流）を確立した。 本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を 学ぶものとする。

授業の到達目標
・梵字がインドより日本に伝わった概略を理解する。 ・いわゆる慈雲流悉曇の意義と内容を理解する。 ・基本的な悉曇文字が書けるようになる。

授業計画
1.配信　梵字の伝来と歴史（インド・中国・日本）
2.配信　梵字の伝来と歴史（我が国に於ける相承）
3.配信　慈雲尊者飲光について
4.配信　梵字の基本字母（摩多体文）について
5.配信　基本字母　阿字の書き方
6.対面　授受作法　基本字母　摩多の書き方（通摩多）
7.対面　基本字母　摩多の書き方（通摩多・別摩多）
8.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
9.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
10.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
11.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
12.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
13.対面　基本字母　体文の書き方（遍口声）
14.対面　基本字母　体文の書き方（遍口声）
15.対面　応用　十二点と切継について

準備学習(予習・復習)・時間
テキストを通読して悉曇字母表の概要を理解しておくこと。

テキスト
①松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門（基礎編)』高野山出版社刊　 部分（標題紙・目次・本文全270頁中〈5～35頁、75～138頁〉・奥付）の電子複写 ②『悉曇摩多体文手本』半紙大11枚（伝授〈講義〉時にお渡しします）

参考書・参考資料等
松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門（応用編)』高野山出版社 静慈円『梵字悉曇（慈雲流の意義と実践)』朱鷺書房 田久保周誉著、金山正好補筆『梵字悉曇』平川出版社

学生に対する評価
授業参加の積極性（20%）作品提出（80%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）習った梵字を書くことができる。
（B）梵字に慣れ基本的な書法を理解している。
（A）正確で美しい梵字を書くことができる。
（S）文字もきれいで、しかも梵字に対する深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法
対面授業により直接実技添削指導を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 伝統的な師資相承による伝授形式をとるので身心を整え袈裟念珠を持参されたい。(略袈裟可) 実習については習字のしやすい格好で書道道具と半紙を用意のこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
真言宗僧侶であり慈雲流悉曇の継承者である教員が、伝統的に相承されてきた悉曇の概要と書法を実技指導する。

科目名	真言密教特殊講義U							学 期	後期
副 題	密教瞑想法				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-083	実務経験の有無	無	関連DP	2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
阿字觀は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の觀法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字觀は在家の人でも修することができる。密教觀法の一つである月輪観と阿字観についてについてその理論と実習を通じ修得する。

授業の到達目標
阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、理論を修得するとともに説明できるようになる。

授業計画
1.瞑想の目的と種類
2.阿息観について
3.阿息観の実習
4.月輪観について
5.月輪観について
6.月輪観実習
7.『大日経』と阿字
8.阿字観について
9.阿字観について
10.阿字観実習
11.自由討論
12.阿字観の口訣
13.阿字観の口訣
14.阿字観実習
15.レポート作成と講評

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、授業で修得したことを整理し、身に付けること。(120分)

テキスト
①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』(春秋社) その他コピー配布

参考書・参考資料等
『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

学生に対する評価
レポート (80%)、授業参加の積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 密教の基本的文献を調査し読むことができる。
(B) 月輪の意味について説明できる。
(A) 実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。
(S) 密教瞑想法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他
楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習S							学 期	後期
副 題	真言密教の死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-229	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標
仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画
1.概論(講義の進め方等)
2.凡夫の生死　① 苦としての生死
3.　〃　② 五蘊と無我
4.　〃　③ 縁起としての生死
5.　〃　④ 輪廻の世界
6.仏陀観の変遷　① 釈尊の生涯
7.　〃　② 変容する釈尊
8.　〃　③ 神変とマンダラ
9.この身のままで仏と成る　① 六大と人間
10.　〃　② 真理の表現
11.　〃　③ 心とマンダラ
12.生死の意味　① 因不可得
13.　〃　② 縁起生から本不生へ
14.　〃　③ 「真に帰す」
15.まとめ ―〈私〉という存在―

準備学習(予習・復習)・時間
・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく（60分）　・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる（120分）

テキスト
・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等
①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価
授業内での積極的な発言（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）基礎的な仏教用語を習得している。
（B）仏陀観の変遷について説明ができる。
（A）大乗仏教から密教への展開を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
各まとまりごとにリアクションペーパーを作成させ、講評する。

その他
・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習T							学 期	後期
副 題	密教とスピリチュアルケア				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M2-10-230	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
この講義では、密教の世界観をベースとしたスピリチュアルケアの援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気だけでなく戦争、災害などで大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの理解を深める。

授業計画
1.ガイダンス
2.仏教の世界観
3.密教の世界観
4.喪失の悲しみ
5.悲嘆の過程①
6.悲嘆の過程②
7.悲嘆の過程③
8.悲嘆の過程④
9.病とスピリチュアルケア①
10.病とスピリチュアルケア②
11.病とスピリチュアルケア③
12.自殺防止とスピリチュアルケア①
13.自殺防止とスピリチュアルケア②
14.生死問題（安楽死と生殖医療）とスピリチュルケア
15.まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教・密教の世界観の基本的な知識を身につけている。
（B）スピリチュアルケアを理解するための基本的な知識をみにつけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上でスピリチュアルケアの概念を理解している。
（S）現代の社会問題について、スピリチュアルケアの視点から捉えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教学講読演習U							学 期	後期
副 題	歴史資料からたどる真言宗の歴史				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-01-231	実務経験の有無	無	関連DP	1,3,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海によって開宗された真言宗は、密教を教理とした日本独自の宗派である。空海は、高雄山寺（現在の神護寺）を皮切りに、高野山、東寺、東大寺、宮中真言院などを拠点として、真言宗を広める活動を展開し、それらは弟子たちに受け継がれた。　本授業では、空海による開宗から初期の真言教団のあゆみについて、活動の拠点となった寺院を中心に、歴史資料を講読することを通じて、その背景を視野に入れながら考察する。

授業の到達目標

空海の著作や真言宗寺院に関する歴史資料を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代初期における真言宗のあゆみを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学からみた空海の生涯①（講義）
2. 歴史学からみた空海の生涯②（講義）
3. 歴史学からみた空海の生涯③（講義）
4. 高野山の開創①（講読）
5. 高野山の開創②（講読）
6. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ①（講読）
7. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ②（講読）
8. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ③（講読）
9. 高雄山寺から神護寺へ①（講読）
10. 高雄山寺から神護寺へ②（講読）
11. 高雄山寺から神護寺へ③（講読）
12. 後七日御修法と宮中真言院①（講読）
13. 後七日御修法と宮中真言院②（講読）
14. 平安京周辺での真言宗寺院の展開（講義）
15. 寺院から考える真言宗の歴史（講義）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修：授業で取り上げる歴史資料について辞書等で用語・語句を調べる（90分）　事後学修：授業で取り上げた寺院や事項について調べる（60分）。

テキスト

テキストは使用せず、歴史資料やレジュメをテーマごとに配布する。

参考書・参考資料等

平岡定海『日本寺院史の研究』（吉川弘文館、1981年）。　吉川真司『天皇の歴史２　聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018年）。　その他、テーマごとの参考書や参考資料等は、授業中に紹介する。

学生に対する評価

予習・復習などを含めた授業への参加度（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史資料を読むスキルを身につける。
（B）歴史資料を読み、その内容を理解する。
（A）真言宗寺院に関する歴史資料を読み解き、平安時代初期の真言宗のあゆみを説明できる。
（S）平安時代初期の真言宗のあゆみについて、社会的背景をふまえて考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。　①漢文の歴史資料を取り上げることがある。②受講生の関心によって、授業で取り上げた寺院や関連する場所を実際に訪れ、「歴史を体感する」機会を設けてもらいたい。

科目名	仏教学講読演習S							学 期	後期
副 題	仏教を宗教の領域からはずして捉える				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-232	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
仏教が宗教か否かについての問題について考究する。

授業の到達目標
宗教とは何か？仏教とは何か？の問いかけに答えることができるようになる。

授業計画
1. オリエンテーション
2. 宗教とは何か？①
3. 宗教とは何か？②
4. 宗教とは何か？③
5. 仏教とは何か？①
6. 仏教とは何か？②
7. 仏教とは何か？③
8. 宗教の原理①
9. 宗教の原理②
10. 宗教の原理③
11. 仏教の原理①
12. 仏教の原理②
13. 仏教の原理③
14. 仏教の原理④
15. 仏教の原理⑤

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、次回の講義のテーマについて調べておくこと。（60分）、復習として、講義で行った内容を見直し、理解を深めること（90分）

テキスト
担当者が作成する『仏教は宗教か？』の資料を配布する。

参考書・参考資料等
参考書・参考資料等は講義で紹介する。

学生に対する評価
根源的な疑問を持って学ぶ態度を評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）宗教とはなにか、および仏教とは何かという基礎的な知識を身につけている
（B）宗教とはなにか、および仏教とは何かという意味を理解している。
（A）宗教とはなにか、および仏教とは何かという意味を理解し、他者に説明することができる。
（S）宗教とはなにか、および仏教とは何かという意味を理解し、問いかけたことに答えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で指示する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習T							学 期	後期
副 題	心とはなにかⅡ				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-233	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標
仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション（授業の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2.アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（1）大地法－
4.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（2）大善地法－
5.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（3）大煩悩地法・大不善地法－
6.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（4）小煩悩地法・不定地法－
7.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（5）心心所の働き方－
8.大乗仏教－大乗経典と大乗論師－
9.大乗仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（1）六識－
10.大乗仏教－瑜伽行派の心の分析（2）マナ識・アーラヤ識－
11.大乗仏教－転識得智－
12.大乗仏教－仏性・如来蔵－
13.大乗仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14.密教－『大日経』「住心品」－
15.授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

テキスト
竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布） 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等
①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『『大乗五蘊論』を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学講読演習U							学 期	後期
副 題	「『感身学正記』と叡尊関係史料を読む」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-12-234	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、史料に即して理解できるようになる。　②鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。　③仏教史料の持つ歴史的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画
1．『感身学正記』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
2．『感身学正記』を読む①（弘安６年条）
3．『感身学正記』を読む②（弘安６年条）
4．『感身学正記』を読む③（弘安６年条）
5．『感身学正記』を読む④（弘安６年条）
6．『感身学正記』を読む⑤（弘安６年条）
7．『感身学正記』を読む⑥（弘安６年条）
8．『感身学正記』を読む⑦（弘安６年条）
9．『感身学正記』を読む⑧（弘安７年条）
10.『感身学正記』を読む⑨（弘安７年条）
11.『感身学正記』を読む⑩（弘安７年条）
12.『感身学正記』を読む⑪（弘安７年条）
13.『感身学正記』を読む⑫（弘安７年条）
14.叡尊関係の史跡見学①
15.叡尊関係の史跡見学②

準備学習（予習・復習）・時間
【予習】事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した予習をできるように努力すること（120分）【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60分）

テキスト
①『感身学正記』本文のプリント（第1回の講義で配布する）。　②細川涼一『感身学正記』第2巻（平凡社東洋文庫、2020年）（書店などで購入。必ず講義に持参すること）　③受講生が作成する報告資料（成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること）

参考書・参考資料等
①和島芳男『叡尊・忍性』（吉川弘文館、1959年）　②長谷川誠注解・訳 『興正菩薩御教誡聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊 （西大寺、1990年）　③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』（奈良国立博物館、2001年）　④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』（吉川弘文館、2004年）

学生に対する評価
レポート（70%）、講義中での報告（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
（A）『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
（S）『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法
演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスを行なう。 レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他
①本演習は、受講生に適宜報告を課すアクティブ・ラーニングであるので、参考書や講義で紹介する論著を読んで、資料を作成すること。②受講者は、「古文書解読」や「歴史学」なども履修しておくこと。③本演習では、２回分の時間を史跡見学にあてる予定である（土曜日もくしは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

科目名	真言密教講読演習S							学 期	後期
副 題	真言密教の儀礼Ⅱ				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-235	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験するために、真言密教における実践行を実際に体験する。

授業の到達目標
・1200年の歴史を有する真言密教における実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。 ・真言密教の読経や声明、特に在家用の読経について学び、実際に読誦できるようになる。 ・瞑想や礼拝行を体験し、真言密教の実践行をより深く理解する。

授業計画
1.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（1）―
2.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（2）―
3.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（3）―
4.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（4）―
5.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（5）―
6.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（6）―
7.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（7）―
8.真言密教の読経―陀羅尼の解説と読誦―
9.真言密教の行法―礼拝行の解説と実践―
10.真言密教の荘厳―仏具・衣体の解説―
11.真言密教と茶道―解説と喫茶―
12.真言密教の声明―解説と実唱（1）―
13.真言密教の声明―解説と実唱（2）―
14.真言密教の瞑想法―解説と実修（1）―
15.真言密教の瞑想法―解説と実修（2）―

準備学習（予習・復習）・時間
・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること（30分）。 ・事後学習として、読経や瞑想などを続けておくこと（60分）。

テキスト
・『仏前勤行次第』（高野山出版社、1997年） ・坂田光全『真言宗在家用『仏前勤行次第』の解説』（高野山出版、2016年） 上記テキストの入手方法については、講義初回に応相談。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
講義中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義での実践行に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・実際に体験して学ぶこと（アクティブ・ラーニング）を中心にした講義である。 ・オンラインでの受講不可。 ・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。 ・別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	密教学演習S							学 期	通年
副 題	卒業研究指導				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-25-235	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

密教文化コースの学生を対象に、学問することの楽しさと、学問するためのスキルを身につけるための演習を行う。学問のおもしろさは、インプット（疑問→調べる）とアウトプット（発見→書く）、すなわち「学び問う」のループの中で、「多様なものの見方」を身につけて「自分とは何か」を思索することにある。前期はインプットするためのスキルを主に講義形式によって解説し、後期はアウトプットするためのスキルを演習（発表とディスカッション）形式で身につけ、卒業研究への模索を行う。

授業の到達目標

学問の楽しさとそのスキルを身につけ、各自の研究課題を見出して、卒業研究を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1.演習の進め方・担当者の自己紹介（講義）
2.受講生の自己紹介①（演習）ー3分のスピーチと討論ー
3.受講生の自己紹介②（演習）ー3分のスピーチと討論ー
4.「学問を楽しむ」とは？（講義）
5.調べる技術を身につける①（講義）
6.調べる技術を身につける②（講義）
7.調べる技術を身につける③（講義）
8.調べる技術を身につける④（講義）
9.調べる技術を身につける⑤（講義）
10.アウトプットするためにー論文とレポートー（講義）
11.アウトプットするためのルールを身につける①（講義）
12.アウトプットするためのルールを身につける②（講義）
13.アウトプットするためのルールを身につける③（講義）
14.レポートを書いてみる①（演習）
15.レポートを書いてみる②（演習）

【後期】

1.夏休みの成果の発表①（演習）
2.夏休みの成果の発表②（演習）
3.クリティカルリーディングとその方法①（講義）
4.クリティカルリーディングとその方法②（講義）
5.クリティカルリーディングとその方法③（講義）
6.文献を要約し、批判的に検討する①（演習）
7.文献を要約し、批判的に検討する②（演習）
8.文献を要約し、批判的に検討する③（演習）
9.文献を要約し、批判的に検討する④（演習）
10.文献を要約し、批判的に検討する⑤（演習）
11.文献を要約し、批判的に検討する⑥（演習）
12.文献を要約し、批判的に検討する⑦（演習）
13.文献を要約し、批判的に検討する⑧（演習）
14.卒業研究に向けた模索①（演習）
15.卒業研究に向けた模索②（演習）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修：事前に配信されたレジュメなどを熟読する（90分）、 事後学修：授業内容についてふりかえりながら整理し、質問や感想をコメントとして提出する（60分）。

テキスト

前期については、事前に配信するレジュメと、宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』（岩波新書〔新赤版1853〕、2020年）をテキストとして進める（大型書店やネット書店で購入）。 後期については、受講者と相談してテキストを定め、それを用いて進めていく。

参考書・参考資料等

授業テーマや受講生の関心にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①授業など演習に関連する行事などへの参加度（60%）・期末レポート（40%）によって評価する。
②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学問を楽しみ、学問するためのインプットの技法を身につける。
（B）学問するためのインプットの技法を身につけ、アウトプットのルールを理解する。
（A）学問するためのアウトプットのルールを理解し、実践することができる。
（S）卒業研究のテーマを見出し、その取り組みについて模索する。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 授業はLSO形式（オンライン・オンデマンド）で行うが、できる限り、オンラインによるオンタイム受講が望ましい。それにともない、受講生と相談し、開講曜日・時限を変更する場合もある。

科目名	密教学演習T							学 期	通年
副 題	卒業研究指導・不空三蔵と弘法大師とを読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-25-235	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海による『御請来目録』は単なるカタログにとどまらず平安初期における一種の知的ネットワークの形成基盤とも目されている。また不空三蔵撰の『金剛頂経瑜伽十八会指帰』はインド・中国・日本における「金剛頂経」系の密教の流伝と受容に大きな役割を果たし、我が国における仏教思想にも近代に至るまで大きな影響を与えた。この講座ではこれら二つの漢文テキストの精読を通じて、仏教文献を読むうえでの基本的な文献学的知識を押さえるとともに学習ツールとしての人文情報学（DH）の基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

１、仏教文献講読に不可欠な文献学的手法を学ぶ。 ２、仏教学と人文情報学のアプローチを駆使して理解する。 ３、問題点と解決の方向性を思考し論述することができる。

授業計画

【前期】

１.ガイダンスならびに前期授業の概要説明
２.資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
３.資料概観② 知的基盤としての『御請来目録』
４.論文指導①
５.『御請来目録』精読①
６.『御請来目録』精読②
７.『御請来目録』精読③
８.論文指導②
９.『御請来目録』精読④
10.『御請来目録』精読⑤
11.『御請来目録』精読⑥
12.論文指導③
13.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読①
14.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読②
15.論文指導④

【後期】

１.ガイダンスならびに後期授業の概要説明
２.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読③
３.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読④
４.論文指導⑤
５.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑤
６.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑥
７.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑦
８.論文指導⑥
９.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑧
10.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑨
11.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑩
12.論文指導⑦
13.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑪
14.『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑫
15.論文指導⑧

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として次回に読む範囲のテキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。
事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

テキスト

一次資料・関連文献については担当者がPDFを配布する。

参考書・参考資料等

①高木神元「御請来目録」『日本名僧論集』3、東京・吉川弘文館1982、②甲田宥吽「『御請来目録』の書誌学的研究」『高野山大学密教文化研究所紀要』4、1991年、③奥山直司「十八会指帰」校註『新国訳大蔵経 密教部4』東京・大蔵出版、 2004年。

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
（B）一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができている。
（A）文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができている。
（S）学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。基本的な漢文読解の知識をもつことが望ましい。サンスクリット語・チベット語の履修を必ずしも必要とするものではないが、インド密教に興味がある受講生の積極的参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ＩＳ)							学 期	前期
副 題	仏教入門講座Ｉ				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G1-02-237	実務経験の有無	無	関連DP	1		単位数	2	他	Ａ・Ｉ

授業の目的と概要
チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標
チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画
１.授業の内容説明
２.仏教とは、なんのためにあるのか。一般的な仏教のご紹介
３.前世と来世の有無についての説明（生まれ変わること）
４.善業と悪業との結果についての説明
５.仏陀の教に入門である三帰依についての説明
６.仏法僧に帰依する時学ぶべきことについての説明
７.十不善についての説明（身口意により不善）
８.十不善の結果についての説明
９.十善戒についての説明（身口意により善戒）
10.六加行法についての説明
11.七支分の中の第一の礼拝の支分と供養の支分についての説明
12.第三懺悔の支分から第七の廻向までの支分についての説明
13.十に縁起の説明（１）
14.十に縁起の説明（２）
15.学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、 事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト
教員が用意する。

参考書・参考資料等
教室で指示する。

学生に対する評価
発表（40％）、授業参加の積極性（60％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（Ｃ）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（Ｂ）仏教の教えの大要を説明できる。
（Ａ）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（Ｓ）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅡS)							学 期	後期
副 題	仏教入門講座Ⅱ				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G1-02-238	実務経験の有無	無	関連DP	1		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標
四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画
１.授業の内容説明
２.四聖諦（１）苦諦についての説明
３.四聖諦（２）集諦についての説明
４.四聖諦（３）滅諦と道諦についての説明
５.三十七道品（２）四念住と四正断などについての説明
６.三十七道品（２）八正道についての説明
７.菩薩トクメーサンポが著した『三十七偈の菩薩の実践』を読む（１）煩悩の過失についての説明
８.『三十七偈の菩薩実践』を読む（２）慈悲の心についての説明
９.『三十七偈の菩薩実践』を読む（３）六波羅蜜についての説明
10.ツオンカパ大師が著した『ラムツオ　ナムスム』を読む（１）出離についての説明
11.『ラムツオ ナムスム』を読む（２）菩提心についての説明
12.『ラムツオ ナムスム』を読む（(３）空の見解についての説明
13.極楽へ生まれ変わる原因についての説明（１）
14.極楽へ生まれ変わる原因についての説明（２）
15.学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。 事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

テキスト
教室で指示する。

参考書・参考資料等
教室で指示する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(仏画S)							学 期	通年
副 題	仏画				授業方法	実技	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G1-02-239	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
基礎から紙本の仏画制作の技法を勉強し、線画と顔料による彩色画で仏・菩薩・明王・天部の姿を描く。密教の曼荼羅を構成する多様な尊像に関する知識を学び、仏教の世界観についての理解を深める。

授業の到達目標
仏画の描き方を身につけ、仏教の諸尊や仏教美術についての理解を深める。

授業計画

【前期】
1. 講義内容の説明（授業の進め方、道具の使い方など）
2. 基礎１　手足・衣紋線の描き方
3. 基礎２　面相・頭部の描き方
4. 基礎３　頭光・瓔珞・持ち物の描き方
5. 基礎４　蓮華座・岩座・雲の描き方
6. 基礎５　墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習
7. 基礎６　明王・天部の全体を描く（１）
8. 基礎７　明王・天部の全体を描く（２）
9. 基礎８　仏・菩薩の全体を描く（１）
10. 基礎９　仏・菩薩の全体を描く（２）
11. 作品制作　白描の作品を描く（１）
12. 作品制作　白描の作品を描く（２）
13. 作品制作　紺地金泥の作品を描く（１）
14. 作品制作　紺地金泥の作品を描く（２）
15. 講義内容の総括

【後期】
1. 講義内容の説明（道具の使い方、彩色画の実例作品の紹介など）
2. 淡彩１　絵具の作り方、平塗り・ぼかしの技法
3. 淡彩２　肌の色の作り方、肌の描き方
4. 淡彩３　面相の描き方（仏・菩薩）
5. 淡彩４　面相の描き方（明王）
6. 淡彩５　頭部・頭光の描き方
7. 淡彩６　混色と繧繝彩色
8. 淡彩７　蓮華・衣・紋様の描き方
9. 淡彩８　瓔珞・持ち物の描き方（金泥）
10. 淡彩９　山石・樹木の描き方
11. 作品制作　彩色仏画（１）
12. 作品制作　彩色仏画（２）
13. 作品制作　彩色仏画（３）
14. 作品制作　彩色仏画（４）
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、講義で学んだ技法に関して練習をしておくこと。（９０分）

テキスト
書写手本及び関係資料はコピーを配布する。

参考書・参考資料等
中村幸真・中村凉應『模写で描く仏画入門』（日本放送出版協会、１９９１年）　中村凉應・中村幸真『模写で描く彩色仏画入門』（日本放送出版協会、２０００年）　佐和隆研『仏像図典』（吉川弘文館、１９７５年）

学生に対する評価
毎回の授業の書写作品（70%）授業参加への積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）仏画の基本事項を理解できる。
（B）仏画の基本事項を理解し、それを描写することができる。
（A）仏教や仏画に関することを理解し、完成度の高い作品を描ける。
（S）仏教や仏画に関することを理解し、尊像への理解とその表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、授業内で対応する。

その他
受講生は年間を通して使用する面相筆･彩色筆･紙を購入する（用具の発注は担当者が行う）。墨･硯･筆洗･雑巾･日本画絵具は受講生が各自で用意すること。ただし、梅皿・念紙・金泥などの用具・資材は担当者が貸与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、過去に本講義の単位を取得したことがある受講生に対しては、和紙ではなく、絵絹と木板の上で描く仏画の技法を紹介する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
仏画工房で国宝の曼荼羅の復元制作に携わった経験のある担当者が、その経験を活かし、仏像の基本知識に基づいた仏画制作の技術について講義する。

科目名	企画科目(仏教美術入門S)							学 期	後期
副 題	仏教美術入門				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	G1-02-240	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を習得する。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味の範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

授業の到達目標

仏教美術にも興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、自身の言葉で説明できるようになる。

授業計画

1.仏教美術の成立（インド文化圏のストゥーパと舎利容器）
2.インドとパキスタンの仏像
3.仏教の伝播と仏教美術の広がり
4.飛鳥時代前期の美術
5.飛鳥時代後期（白鳳期）の仏教美術
6.奈良時代の仏教美術　1
7.奈良時代の仏教美術　2
8.正倉院宝物概説
9.奈良時代の密教美術
10.後七日御修法と仏歯供養
11.浄土教の美術
12.神仏習合の美術
13.平安時代から鎌倉時代
14.密教美術　彫刻
15.密教美術　絵画

準備学習(予習・復習)・時間

事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

テキスト

・『寧楽遺文　中巻　宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和３７年）　・『校刊美術史料　寺院編　上中下』（中央公論美術出版、昭和４７年）

参考書・参考資料等

・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和６２年）　・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和３７年）　・内藤栄『舎利荘厳美術の研究』（青史出版、平成２２年）

学生に対する評価

出席５０％　レポート５０％

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
（B）・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
（A）・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
（S）・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・美術館と博物館で３０年以上勤務しており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において２６年、大阪市立美術館で１年勤務している。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。

科目名	企画科目(高野山の歴史と文化S)							学 期	前期
副 題	高野山の歴史と文化				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	G3-01-121	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
高野山は、西暦816年（弘仁7年）に嵯峨天皇より賜り、1200年以上経た今でも、世界文化遺産の聖地として広く知られている。しかし、今でも高野山の街並みは変化しつづけており、その長い歴史に直接触れることは難しい。そこで、現代から歴史を遡りながら、町の変遷や文化・歴史的人物を学ぶことで、時代毎に特質があることを理解する。

授業の到達目標
・高野山の歴史・文化についての参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。　・金剛峯寺磬臺案内人の資格試験に合格できる。　・『紀伊続風土記』等の読解ができ、根拠となる資料が確認できる。

授業計画
1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2. 世界遺産としての高野山―「紀伊山地の霊場と参詣道」―
3. 大師信仰の聖地としての高野山―大師信仰の宣揚と四国遍路―
4. 近代国家としての高野山①―学校の設立と文化財の保護―
5. 近代国家としての高野山②―女人禁制の解禁と商業―
6. 幕藩体制の中の高野山①―学道の隆盛と宝寿二門―
7. 幕藩体制の中の高野山②―元禄聖断と衆行争論―
8. 幕藩体制の中の高野山③―蓮華三昧院頼慶と徳川家康―
9. 荘園領主としての高野山①―木食応其と豊臣秀吉―
10. 荘園領主としての高野山②―高野聖と織田信長―
11. 荘園領主としての高野山③―宥快法印と足利義満―
12. 浄土としての高野山①―勧進と町石道―
13. 浄土としての高野山②―血曼荼羅と『平家物語』―
14. 浄土としての高野山③―覚鑁上人と鳥羽上皇―
15. 浄土としての高野山④―小野仁海と藤原道長―

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、指定した参考文献に目を通し（60分）、専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30 分)・事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(90 分)

テキスト
講師が配布資料を用意する。 松長有慶『高野山』、岩波新書、2014年も併用する。

参考書・参考資料等
・木下浩良『高野山の歴史と文化』高野山出版社　・山陰 加春夫『歴史の旅 中世の高野山を歩く』吉川弘文館　・高野山金剛峰寺記念大法会事務局『高野山千百年史』　・『紀伊続風土記』(『続真言宗全書』36.37巻)
※その他、適時講義中に紹介する。

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）高野山の歴史・文化について、参考書を読み上げることができる。
（B）高野山の歴史・文化について、未知の語彙を調べ、用語の説明ができる。
（A）高野山の歴史・文化について、『紀伊続風土記』等から、資料の裏付がとれる。
（S）高野山の歴史・文化について、由来を端的に過不足なくまとめ、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・本講義は金剛峯寺境内案内人資格試験（12月頃）の受験を推奨するが、対策等は別途行う。　・用語の意味など、講義中回答してもらうので、必ずテキストは一読してくること。　・わからない語彙は、調べる癖をつけること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての教養の布教について、高野山の歴史・文化を通じて、周辺分野の見識の重要性を認識させる。

科目名	企画科目(密教文化講座S)							学 期	通年
副 題	密教文化講座				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G1-01-241	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
各研究機関や社会の中で実践されている自然科学系統を中心とする様々な研究分野の最前線の領域について、本校客員教授陣が交替で３回生向けにわかりやすく紹介する。様々な分野の研究の熱気の一端に触れると同時に、密教との親和性を有するあらゆる学域のアプローチにより、現代社会の抱える問題点に関する新なる視点を提供することにより、将来の研究テーマ選択に資するリレー講義である。

授業の到達目標
各専門分野における最先端の研究内容を知る。経験豊かな各研究者自身による知性に富んだ講義を聴講することにより、書物からでは得られない各分野の情報を得る。

授業計画
１.松長潤慶　「なぜ今密教なのか」
２.担当教員　平岡宏一
３.　　〃
４.担当教員　神崎亮平
５.　　〃
６.担当教員　永田良一
７.　　〃
８.担当教員　名越康文
９.　　〃
10.担当教員　根来秀行
11.　　〃
12.担当教員　高岡義寛
13.　　〃
14.担当教員　菅澤茂
15.　　〃

準備学習(予習・復習)・時間
特にない。集中して聴講してほしい。

テキスト
各教員の指示による。

参考書・参考資料等
各教員の指示による。

学生に対する評価
レポートにより判断する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）講義内容が理解できる。
（B）講義内容を整理・まとめることができる。
（A）講義内容から現代社会の抱える問題点を指摘できる。
（S）講義内容から現代社会の抱える問題点を密教の見地から論述できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業毎に質問に答える。

その他
平岡宏一先生２回、神崎亮平先生２回、永田良一先生２回、名越康文先生２回、根来秀行先生２回、高岡義寛先生２回、菅澤茂先生２回による合計１５回のリレー講義で、現代社会のフロンティアを学ぶ。講義の日程・担当教員・テーマは，前期の学期初めに掲示される。順番等は変更する場合がある。

科目名	サンスクリット語上級S							学 期	通年
副 題	古典サンスクリット語の文学作品を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	G2-07-256	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。 この授業は、初等文法を学習し終えた学生を対象として、サンスクリット語の文法事項をさらに一歩踏み込んで学習することにより、インド古典に対する読解力をより高めることを目的とする。

授業の到達目標

・サンスクリット語の文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。 ・サンスクリット語で記された古典文学作品を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。 ・Readerにおける文法事項や注記を参照することで、文献学の基礎を理解できるようになる。

授業計画

【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 初等文法の確認（1）：文字と発音・母音の曲用・子音の曲用
3. 初等文法の確認（2）：比較法・代名詞・数詞・不変化詞
4. 初等文法の確認（３）：動詞の活用（現在組織）
5. 初等文法の確認（4）：連声法・準動詞・名称詞造語法・合成語法・韻律
6. 初等文法の確認（5）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
7. 読解（１）：散文の翻訳（Hitopadeśa １）
8. 読解（２）：散文の翻訳（Hitopadeśa ２）
9. 読解（３）：散文の翻訳（Hitopadeśa ３）
10. 読解（４）：散文の翻訳（Hitopadeśa ４）
11. 読解（５）：散文の翻訳（Hitopadeśa ５）
12. 読解（６）：散文の翻訳（Hitopadeśa ６）
13. 読解（７）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna １）
14. 読解（８）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ２）
15. 読解（９）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ３）

【後期】

1. 読解（10）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ４）
2. 読解（11）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ５）
3. 読解（12）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ６）
4. 読解（13）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ７）
5. 読解（14）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ８）
6. 読解（15）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna ９）
7. 読解（16）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 10）
8. 読解（17）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 11）
9. 読解（18）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 12）
10. 読解（19）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 13）
11. 読解（20）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 14）
12. 読解（21）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 15）
13. 読解（22）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 16）
14. 読解（23）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 17）
15. 読解（24）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 18）

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（150分）。 ・事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（30分）。

テキスト

・Charles Rockwell Lanman. A Sanskrit Reader（何度も再版されているので、どの版でも可） ・William Dwight Whitney. Sanskrit Grammar（何度も再版されているので、どの版でも可）

参考書・参考資料等

・辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974年 ・鎧淳 訳『J. ゴンダ：サンスクリット語初等文法』、春秋社、1982年 ・吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015年

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な文法事項を理解できている。

（B）Readerにおける文法事項や注記を正確に理解できている。

（A）サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。

（S）サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ・原則的にはサンスクリット語初級の既習者が対象であるが、必要によっては適宜相談に応じる。

科目名	チベット語S							学 期	通年
副 題	チベット語の基礎				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G2-07-257	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランパ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標
文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

授業計画

【前期】
1.オリエンテーション
2.３０基字の１～１０の読み方と発音
3.３０基字の１１～２０の読み方と発音
4.３０基字の２１～３０の読み方と発音
5.簡単なあいさつ
6.３０の子音字母と母音の結合１～１５の読み方と発音
7.３０の子音字母と母音の結合１６～３０の読み方と発音
8.簡単な会話
9.反対字の読み方と発音
10.ར を頭とする有頭字
11.ལ を頭とする有頭字
12.ས を頭とする有頭字
13.ཡ を足とする有足字
14.ར を足とする有足字
15.ལ を足とする有足字

【後期】
1.ཡ を足とする有足字
2.前置字
3.後置字
4.再後置字
5.文章の読み方と日常会話
6.文章の読み方と日常会話（続）
7.文章の読み方と日常会話（続）
8.文章の読み方と日常会話（続）
9.文章の読み方と日常会話（続）
10.文章の読み方と日常会話（続）
11.文章の読み方と日常会話（続）
12.文章の読み方と日常会話（続）
13.文章の読み方と日常会話（続）
14.文章の読み方と日常会話（続）
15.文章の読み方と日常会話（続）

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180分）

テキスト
ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等
松本栄一・奥山直司『チベット［マンダラの国］』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価
授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
（B）チベット語の簡単な挨拶ができる。
（A）チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
（S）チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	パーリ語S							学 期	通年
副 題	基礎文法				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G2-07-130	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

パーリ語とは、伝統的には仏教の聖典語、すなわち仏陀の言葉を記録した言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様に、仏教学および密教学の学習・研究を進める上で極めて有益な言語のひとつである。本授業は、パーリ語文法の基礎を習得し、パーリ語仏典の読解力を養うことを目的とする。サンスクリット語の初等文法の未履修者に考慮して、パーリ語の文法事項を丁寧に確認する。サンスクリット語の履修者に向けては、パーリ語の音韻的特徴などを把握することで、サンスクリット語に対する理解を深める。

授業の到達目標

パーリ語の基本的な文法事項を押さえ、パーリ語仏典を自力で読解できる力を身につける。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 文字と発音
3. 連声法①
4. 連声法②
5. 品詞、名詞の格変化①
6. 動詞
7. 現在形、名詞の格変化②
8. 未来形、名詞の格変化③
9. 過去形
10. 代名詞、形容詞、同格
11. 数詞、不変化辞
12. 命令法、名詞の格変化④
13. 願望法、名詞の格変化⑤
14. 文章構成法
15. 試験と総括

【後期】

1. 連続体、条件法
2. 不定体、名詞の格変化⑥
3. 受動調
4. 使役動詞
5. 分詞、現在分詞、名詞の格変化⑦
6. 過去分詞
7. 未来分詞
8. 動詞と名詞の造語法
9. 合成語①
10. 合成語②
11. 合成語③
12. 格の用法
13. 韻律
14. 仏典を読む
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、指示された次回のテキストの範囲を読んでおくこと（90分） 事後学習として、テキストおよび講義ノートを見直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと（90分）

テキスト

ショバ・ラニ・ダシュ『パーリ語文法―仏典の用例に学ぶ―』法藏館、2021（書店で購入） 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①水野弘元『パーリ語文法』山喜房佛書林、補訂1959、②水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』春秋社、2005、③Geiger, Wilhelm, (translated into English) Ghosh, Batakrishna, & (revised and edited) Norman, K. R. A Pāli Grammar. Oxford: The Pali Text Society. 1994。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）文字と発音を理解し、特定の単語の意味を調べることができる。

（B）パーリ語の音韻的特徴を理解している。

（A）基本的な文法事項を理解している。

（S）テキストにおける文法事項を押さえ、語彙集を参照して、パーリ語文を翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある学生であれば誰でも歓迎する。

科目名	巡礼・遍路S							学 期	通年
副 題	聖地巡礼の自主企画と実施				授業方法	講義	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	G1-26-136	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通した身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は40時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

授業の到達目標
巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

授業計画
1.実習計画書の作成　：実習時間は1日4時間～8時間、最大40時間まで。
2.実習計画書の提出　：教務課窓口に（実習予定1週間前まで）
3.実習許可通知　：教務課から連絡。
4.実習開始
5.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
6.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
7.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
8.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
9.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
10.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
11.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
12.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
13.実習終了
14.実習レポートの作成　：40時間分の実習日誌に基づいてレポート（800字以上）を作成。
15.実習日誌・レポートの提出：教務課窓口に提出。この時点で履修登録。

準備学習（予習・復習）・時間
・実習計画書作成のための学習（60分）　・実習日誌作成（60分）　・実習レポート作成による振り返り（60分）

テキスト
・特に無し

参考書・参考資料等
・実習計画書にあわせて指導する。

学生に対する評価
実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる。
（B）巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
（A）巡礼・遍路の意味を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
実習レポートの講評を個別に実施する。

その他
・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度、1週間前までに実習計画書を提出すること。　・1日の実習は、4時間以上8時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。　・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。・課外授業用の保険に加入すること。

科目名	巡礼・遍路T							学 期	前期
副 題	四国遍路と各地の巡礼				授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔	
ナンバリング	G1-01-137	実務経験の有無	有	関連DP	1,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
弘法大師によって開かれたとされる四国八十八ヶ所遍路や、西国三十三所など各地の巡礼にについて、歴史と現状、巡拝の仕方などについて学ぶ。スライド等を使ったバーチャル体験もできるようにする。座学だけでなく、実際に巡拝をする場合のノウハウも身に着ける。実際に遍路に出る場合に戸惑わないよう実習も行う。

授業の到達目標
四国遍路や各地の巡礼について、仏教的な立場から説明できるようになる。用語、歴史等、基礎的な知識を学び、実際の巡拝に活用できるようになる。巡拝作法や巡拝計画の立て方を身につける。

授業計画
1.オリエンテーション
2.巡礼・遍路の定義
3.遍路習俗と巡拝作法
4.四国遍路の歴史
5.阿波の霊場
6.土佐の霊場
7.伊予の霊場
8.讃岐の霊場
9.江戸時代の四国遍路
10.現代の四国遍路
11.西国三十三所概要
12.番外札所と写し霊場
13.実践方法の伝授
14.高野山奥の院での実習
15.総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前に、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問点などを整理しておくこと（60分)。講義内容と、講義中に配布された資料を整理し、レポートにまとめられるようにする（60分)。

テキスト
柴谷宗叔『四国遍路　こころの旅路』(慶友社、2017)（書店で購入）

参考書・参考資料等
柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』(法蔵館)、同『公認先達が綴った遍路と巡礼の実践学』(高野山出版)、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』(ちくま新書)、森正人『四国遍路　八十八ヶ所巡礼の歴史と文化』(中公新書)、『四国遍路ひとり歩き同行二人』(へんろみち保存協力会）など

学生に対する評価
レポート（50%)、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）四国遍路について簡単に説明できる
（B）四国遍路と各地の巡礼について用語や歴史を説明できる
（A）四国遍路と各地の巡礼について、各霊場の特徴や違いについて説明できる
（S）四国遍路と各地の巡礼について、成立や歴史を踏まえ、宗教的意義を説明できる

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、次回以降に回答する

その他
できる限り実際に巡拝することを勧める。休日などに実際に札所巡拝を行うことが望ましい。方法は講義中に指示する。時間が取れない場合はテキストや講義中に適宜紹介する文献をできるだけ多く読んでおくこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
四国遍路120周以上の大先達、西国巡拝50周以上の特任大先達、日本各地の巡礼50か所以上の、実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているので、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	古文書解読S							学 期	後期
副 題	中・近世の古文書を読む				授業方法	講義	担当者	桐田貴史	
ナンバリング	G2-12-258	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

この講義では、日本史上、あるいは地域史上重要な古文書を精選し、くずし字の読解はもちろん、その内容を丁寧に読み解くとともに、古文書が発給された歴史的背景も解説する。 なお、講義計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

①中世・近世の古文書に関する読解能力を身につける。 ②中世文書を中心に、多様な文書様式に関する基礎的な認識を得られるようになる。 ③古文書を通して、日本史上の重要な史実について説明できるようになる。

授業計画

1. 古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2. 中世の天皇文書―「宸翰」を読む
3. 中世の公家文書　吉田家旧蔵文書を読む①
4. 中世の公家文書　吉田家旧蔵文書を読む②
5. 中世の寺院文書　西南院文書を読む
6. 中世の寺院文書　五坊寂静院文書を読む
7. 中世の武家文書Ⅱ　佐藤家文書を読む①
8. 中世の武家文書Ⅱ　佐藤家文書を読む②
9. 中世の武家文書Ⅰ　結城神社所蔵文書を読む①
10. 中世の武家文書Ⅰ　結城神社所蔵文書を読む②
11. 近世大名の歴史観　藤堂家覚書を読む①
12. 近世大名の歴史観　藤堂家覚書を読む②
13. 近世後期の文人書簡　川喜田家文書を読む①
14. 近世後期の文人書簡　川喜田家文書を読む②
15. 期末試験

準備学習（予習・復習）・時間

【予習】事前学修として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に見える専門用語や文献について調べておくこと（90分）　【復習】講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと（90分）

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年）※書店で購入のこと。 また、古文書の図版プリントを各授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

①『日本国語大辞典　第2版』全13巻・別巻1巻（小学館、2000～2002年）　②相田二郎『日本の古文書』上・下（岩波書店、1949年）　③佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997年）

学生に対する評価

授業中の参加態度（予習および発言、50%）、期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的なくずし字を解読できる。

（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。

（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。

（S）古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の歴史研究における役割について理解、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

①本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。②『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。（類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意）。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化特殊講義S							学 期	前期
副 題	日本文学史における説話文学Ⅰ				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-259	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	Ⅰ

授業の目的と概要

日本の古典文学において、中古・中世に栄えた完結性のある短い“話”を、総称して「説話」と呼ぶ。説話は特に仏教と深く関わりながら発展したが、仏教思想を背景に持っていながらも、笑い話や処世術を示す教訓譚などの世俗的な説話を多く含んだ作品もあり、現代とははるか隔たった時代を生きた人々の息づかいをリアルに感じさせる文学性を有している。本講義では、主に上代（奈良時代）・中古（平安時代）の説話文学を取り上げ、詳しく読むことで、古典への理解を深めるとともに、文学作品の読み方を学ぶ。

授業の到達目標

説話文学の特徴とその読み方・研究方法、および古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンス／古典文学を読むとはどういうことか
2．「説話」とは何か
3．説話の歴史（上代・中古）
4．説話を読むための視点
5．『日本霊異記』を読む①
6．『日本霊異記』を読む②
7．平安時代前期の仏教説話
8．『今昔物語集』の世界
9．『今昔物語集』本朝仏法部を読む①
10．『今昔物語集』本朝仏法部を読む②
11．『今昔物語集』本朝世俗部を読む①
12．『今昔物語集』本朝世俗部を読む②
13．『今昔物語集』本朝世俗部を読む③
14．『今昔物語集』と芥川龍之介
15．レポート講評／まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90分）。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

中田祝夫『日本霊異記　全訳注　上・中・下』（講談社学術文庫、1978～1980年）　池上洵一編『今昔物語集　本朝部　上・中・下』（岩波文庫、2001年）　その他、講義中に適宜指示する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）説話文学の作品名や基本的な知識を理解している。
（B）説話文学が成立した歴史的背景について理解している。
（A）説話について、自身なりの読解を提示することができている。
（S）説話について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

古語・古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書などを持ち込んでもかまわない。　私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文化特殊講義T							学 期	後期
副 題	日本文学史における説話文学Ⅱ				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-260	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

日本の古典文学において、中古・中世に栄えた完結性のある短い“話”を、総称して「説話」と呼ぶ。説話は特に仏教と深く関わりながら発展したが、仏教思想を背景に持っていながらも、笑い話や処世術を示す教訓譚などの世俗的な説話を多く含んだ作品もあり、現代とははるか隔たった時代を生きた人々の息づかいをリアルに感じさせる文学性を有している。本講義では、主に中世（鎌倉時代）の説話文学を取り上げ、詳しく読むことで、古典への理解を深めるとともに、文学作品の読み方を学ぶ。

授業の到達目標

説話文学の特徴とその読み方・研究方法、および古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンス／古典文学研究への招待
2．「説話」とは何か
3．説話の歴史（中世）
4．説話を読むための視点
5．『発心集』を読む①
6．『発心集』を読む②
7．『発心集』を読む③
8．『宇治拾遺物語』を読む①
9．『宇治拾遺物語』を読む②
10. 『宇治拾遺物語』を読む③
11. 『沙石集』を読む①
12. 『沙石集』を読む②
13. 説話文学の比較研究①
14. 説話文学の比較研究②
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90分）。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

浅見和彦・伊東玉美『発心集　現代語訳付き』（角川ソフィア文庫、2014年）　高橋貢・増古和子『宇治拾遺物語　全訳注』（講談社学術文庫、2018年）　その他、講義中に適宜指示する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）説話文学の作品名や基本的な知識を理解している。
（B）説話文学が成立した歴史的背景について理解している。
（A）説話について、自身なりの読解を提示することができている。
（S）説話について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

古語・古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書などを持ち込んでもかまわない。　私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	中国文化特殊講義S							学 期	前期
副 題	中国の古典を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-261	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

『文選』（中国六朝時代の漢詩文集）を精読することによって、四六駢儷体の特徴など中国文学の文章軌範を理解し、作者の心情について考える。あわせて、『文選』を読解するために必要な中国古典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。同時に、『文選』を始めとする中国古典が弘法大師空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。　○漢文を自学自習するための技法を修得している。　○四六駢儷体の特徴を説明できる。　○「典故を踏む」という技法を説明できる。　○作者の心情を推し量ることができる。

授業計画

1. 木玄虚「海賦」(1)「昔在帝嬀巨唐之代……」を読む。
2. 木玄虚「海賦」(2)「天綱浡潏……」を読む。
3. 木玄虚「海賦」(3)「為凋為瘵……」を読む。
4. 木玄虚「海賦」(4)「洪濤瀾汗……」を読む。
5. 木玄虚「海賦」(5)「萬里無際……」を読む。
6. 木玄虚「海賦」(6)「長波渣滓……」を読む。
7. 木玄虚「海賦」(7)「迆涎八裔……」を読む。
8. 木玄虚「海賦」(8)「於是乎禹也……」を読む。
9. 木玄虚「海賦」(9)「乃鏟臨崖之阜陸……」を読む。
10. 木玄虚「海賦」(10)「決陂潢而相浚……」を読む。
11. 木玄虚「海賦」(11)「啓龍門之岸嶺……」を読む。
12. 木玄虚「海賦」(12)「墾陵巒而嶄鑿……」を読む。
13. 木玄虚「海賦」(13)「群山既略……」を読む。
14. 木玄虚「海賦」(14)「百川潛渫……」を読む。
15. 木玄虚「海賦」(15)「泱漭澹泞……」を読む。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30分）。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60分）。

テキスト

『文選』（明治書院・新釈漢文大系）のコピーを配布する。（受講生の希望があれば、テキストの変更も可）

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000年修訂増補 近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店　昭和53年 他は授業で紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）C段階に加え、未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）B段階に加え、テキストの内容を理解し、説明できる。
（S）A段階に加え、テキストから問題点・疑問点を抽出できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内あるいはオフィスアワーで対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	中国文化特殊講義T							学 期	後期
副 題	中国の古典を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-08-262	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

『礼記』（五経の一つ）を精読することによって、儒教思想への理解を深める。あわせて、『礼記』を読解するために必要な中国古典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。同時に、『礼記』を始めとする中国古典が弘法大師空海の知識の源泉であることを認識し、その思想などを理解することによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。　○漢文を自学自習するための技法を修得している。　○儒教思想の特徴を説明できる。　○「典故を踏む」という技法を説明できる。　○作者の心情を推し量ることができる。

授業計画

1．「王制」(1)「王者之制禄爵……」を読む。
2．「王制」(2)「公侯伯子男凡五等……」を読む。
3．「王制」(3)「諸侯之上大夫卿……」を読む。
4．「王制」(4)「下大夫上士中士下士凡五等……」を読む。
5．「王制」(5)「天子之田方千里……」を読む。
6．「王制」(6)「公侯田方百里……」を読む。
7．「王制」(7)「伯七十里……」を読む。
8．「王制」(8)「子男五十里……」を読む。
9．「王制」(9)「不能五十里者……」を読む。
10．「王制」(10)「不合於天子……」を読む。
11．「王制」(11)「附於諸侯……」を読む。
12．「王制」(12)「曰附庸……」を読む。
13．「王制」(13)「天子之三公之田視公……」を読む。
14．「王制」(14)「侯天子之卿視伯……」を読む。
15．「王制」(15)「天子之大夫視子男……」を読む。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30分）。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60分）。

テキスト

『礼記』（明治書院・新釈漢文大系）のコピーを配布する。（受講生の希望があれば、テキストの変更も可）

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000年修訂増補 近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店　昭和53年 他は授業で紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）C段階に加え、未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）B段階に加え、テキストの内容を理解し、説明できる。
（S）A段階に加え、テキストから問題点・疑問点を抽出できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内あるいはオフィスアワーで対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。